

(様式第 10)

和医大経第 409 号  
平成 29 年 10 月 5 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 公立大学法人和歌山県立医  
理事長 岡村 吉

和歌山県立医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 28 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒641-8509 和歌山市紀三井寺811番地1
氏 名	公立大学法人和歌山県立医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

和歌山県立医科大学附属病院
---------------

3 所在の場所

〒641-8510 和歌山市紀三井寺811番地1	電話(073)447-2300
--------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有 ・ 無		
内科と組み合わせた診療科名等			
①呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科	④腎臓内科
⑤神経内科	⑥血液内科	⑦内分泌内科	⑧代謝内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	⑪リウマチ科	
診療実績	感染症については呼吸器内科・腫瘍内科、アレルギー疾患については呼吸器内科・腫瘍内科、耳鼻咽喉科、皮膚科等において診療。		

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有・無
外科と組み合わせた診療科名	
①呼吸器外科      ②消化器外科      ③乳腺外科      4心臓外科 5血管外科      ⑥心臓血管外科      ⑦内分泌外科      ⑧小児外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科    ②小児科    ③整形外科    ④脳神経外科    ⑤皮膚科    ⑥泌尿器科    7産婦人科 ⑧産科    ⑨婦人科    ⑩眼科    ⑪耳鼻咽喉科    ⑫放射線科    13放射線診断科 14放射線治療科    ⑮麻酔科    ⑯救急科
--

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有・無
歯科と組み合わせた診療科名	
1小児歯科    2矯正歯科    ③口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 糖尿病・内分泌・代謝内科    2 呼吸器内科・腫瘍内科    3 リウマチ・膠原病科 4 神経精神科    5 形成外科    6 リハビリテーション科    7 病理診断科
---

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40床	床	床	床	760床	800床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	401人	81人	412.0人	看護補助者	59人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	16人	2人	16.0人	理学療法士	25人	臨床検査技師	50人
薬 剤 師	51人	2人	52.4人	作業療法士	7人	衛生検査技師	0人
保 健 師	2人	0人	2人	視能訓練士	5人	その他	0人
助産師	40人	3人	41.6人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	749人	46人	778.9人	臨床工学士	16人	医療社会事業従事者	12人
准看護師	3人	4人	5.6人	栄 養 士	0人	その他の技術員	22人
歯科衛生士	5人	0人	5人	歯科技工士	1人	事務職員	206人
管理栄養士	10人	0人	10人	診療放射線技師	43人	その他の職員	9人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	22人	眼科専門医	11人
外科専門医	43人	耳鼻咽喉科専門医	7人
精神科専門医	5人	放射線科専門医	10人
小児科専門医	16人	脳神経外科専門医	15人
皮膚科専門医	10人	整形外科専門医	18人
泌尿器科専門医	5人	麻酔科専門医	18人
産婦人科専門医	12人	救急科専門医	7人
		合 計	199人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (山上 裕機) 任命年月日 平成29年4月1日

平成18年度～平成21年度 医療安全推進部 部長  
 平成18年度～平成21年度 医療安全推進委員会 委員長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	649.8人	7.6人	657.4人
1日当たり平均外来患者数	942.8人	62.0人	1004.8人
1日当たり平均調剤数	858.9剤		
必要医師数	129人		
必要歯科医師数	5人		
必要薬剤師数	22人		
必要(准)看護師数	365人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	417m <sup>2</sup>	鉄骨耐火構造	病床数	10床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急性装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	196.5m <sup>2</sup>	病床数	14床	
	[移動式の場合]	台数	台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床積	40m <sup>2</sup>			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	903m <sup>2</sup>	鉄骨耐火構造	(主な設備) 検体前処理装置、臨床化学測定装置、免疫測定装置、遺伝子解析システム、血液ガス分析装置、血球分析装置、血液凝固線溶測定装置、等			
細菌検査室	90m <sup>2</sup>	〃	(主な設備) 細菌同定・感受性装置、血液培養検査装置、抗酸菌培養検査システム、抗酸菌遺伝子解析システム、ドラフトチャンバー、ふ卵器、蒸気滅菌器、等			
病理検査室	191m <sup>2</sup>	〃	(主な設備) 自動薄切装置、細胞診標本LBC作製装置、等			
病理解剖室	363m <sup>2</sup>	〃	(主な設備) 解剖台、写真撮影装置、等			
研究室	15,458m <sup>2</sup>	〃	(主な設備) デジタル顕微鏡システム、傾向顕微鏡システム、細胞イメージ解析装置、セルソーター、等			
講義室	546m <sup>2</sup>	〃	室数	2室	収容定員	260人
図書室	2,216m <sup>2</sup>	〃	室数	9室	蔵書数	110,000冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	83.4%	逆紹介率	69.2%
算出 根拠	A：紹介患者の数			16,933人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数			16,344人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数			2,772人
	D：初診の患者の数			23,625人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
山口 悦子	大阪市立大学	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
中川 利彦	パークアベニュー法律事務所		法律に関する識見を有するため	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
石井 浩子	NPO 法人いきいき和歌山がんサポート		医療を受ける者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。  
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者  
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)  
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
公表の方法 ホームページに掲載	











(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要 該当なし			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	5	56	ベーチェット病	28
2	筋萎縮性側索硬化症	31	57	特発性拡張型心筋症	14
3	脊髄性筋萎縮症	4	58	肥大型心筋症	48
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	1
5	進行性核上性麻痺	9	60	再生不良性貧血	21
6	パーキンソン病	368	61	自己免疫性溶血性貧血	10
7	大脳皮質基底核変性症	4	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	5
8	ハンチントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	67
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	3
10	シャルコー・マリー・トゥース病	0	65	原発性免疫不全症候群	1
11	重症筋無力症	52	66	IgA 腎症	116
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	12
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	50	68	黄色靭帯骨化症	45
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	23	69	後縦靭帯骨化症	168
15	封入体筋炎	8	70	広範脊柱管狭窄症	11
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	16
17	多系統萎縮症	13	72	下垂体性ADH分泌異常症	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	23	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	0	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
20	副腎白質ジストロフィー	2	75	クッシング病	2
21	ミトコンドリア病	2	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	13	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	0
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	0
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	9
25	進行性多巣性白質脳症	1	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	2	83	アジソン病	4
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	76
30	遠位型ミオパチー	1	85	特発性間質性肺炎	3
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	10
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	2
34	神経線維腫症	16	89	リンパ管筋腫症	2
35	天疱瘡	34	90	網膜色素変性症	4
36	表皮水疱症	2	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	9	92	特発性門脈圧亢進症	6
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	2	93	原発性胆汁性肝硬変	65
39	中毒性表皮壊死症	2	94	原発性硬化性胆管炎	2
40	高安動脈炎	0	95	自己免疫性肝炎	66
41	巨細胞性動脈炎	0	96	クローン病	90
42	結節性多発動脈炎	5	97	潰瘍性大腸炎	174
43	顕微鏡的多発血管炎	10	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	2	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	0	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	7	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	11	102	ルピンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	189	104	ユステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	47	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	33	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	23	107	全身型若年性特発性関節炎	1
53	シェーグレン症候群	87	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	10	109	非典型型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	0	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4. 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	7	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	90	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	19
113	筋ジストロフィー	28	163	特発性後天性全身性無汗症	1
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	1
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	16	167	マルファン症候群	6
118	脊髄髄膜瘤	8	168	エーラス・ダンロス症候群	1
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	6
122	脳表ヘモジドリン沈着症	1	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	3	177	有馬症候群	0
128	ピッカーstaff脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	3
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	4
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	1	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	6
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	4
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	7
144	レノックス・ガストー症候群	1	194	ソトス症候群	1
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	3
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	5
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マガニス症候群	1
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	4
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	1	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	8	208	修正大血管転位症	11
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	12
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	19

## 4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数	
211	左心低形成症候群	2	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	4	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	30	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイトロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	72	263	脳髄黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	25	264	無 $\beta$ リポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	2	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	9	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	10	268	中條・西村症候群	1
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	0	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	3
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	2
227	オスラー病	0	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	1	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	1	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	$\alpha$ 1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	3
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	8	283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	2	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	2	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルグ病(全結腸型又は小腸)	8
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	1
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	2
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	1
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性降炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	1
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	1
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	8

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
0	カナバン病	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
0	進行性白質脳症	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
0	進行性ミオクローヌスてんかん	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
0	先天異常症候群	322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	0
2	先天性三尖弁狭窄症	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
1	先天性僧帽弁狭窄症	324	メチルグルタコン酸尿症	0
0	先天性肺静脈狭窄症	325	遺伝性自己炎症疾患	0
0	左肺動脈右肺動脈起始症	326	大理石骨病	0
0	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
0	カルニチン回路異常症	328	前眼部形成異常	0
0	三頭酵素欠損症	329	無虹彩症	2
0	シトリン欠損症	330	先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	退院支援加算1
歯科外来診療環境体制加算	退院支援加算3
歯科診療特別対応連携加算	精神疾患診療体制加算1
特定機能病院入院基本料(7対1)	精神疾患診療体制加算2
特定機能病院入院基本料(13対1)	救命救急入院料1
看護補助加算2	救命救急入院料2
超急性期脳卒中加算	特定集中治療室管理料2
診療録管理体制加算2	総合周産期特定集中治療室管理料【母体・胎児集中治療室管理料】
医師事務作業補助体制加算1	総合周産期特定集中治療室管理料【新生児集中治療室管理料】
急性期看護補助体制加算	新生児治療回復室入院医療管理料
看護職員夜間配置加算	小児入院医療管理料2
療養環境加算(一般)	
療養環境加算(精神)	・
重症者等療養環境特別加算	・
無菌治療室管理加算1	・
無菌治療室管理加算2(平成29年4月30日辞退)	・
緩和ケア診療加算	・
精神科身体合併症管理加算	・
医療安全対策加算1	・
感染防止対策加算1(感染防止対策地域連携加算)	・
患者サポート体制充実加算	・
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
ハイリスク妊婦管理加算	・
ハイリスク分娩管理加算	・
呼吸ケアチーム加算	・
データ提出加算2	・

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
ウイルス疾患指導管理料「注2」に規定する加算	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
高度難聴指導管理料	ヘッドアップティルト試験
糖尿病合併症管理料	長期継続頭蓋内脳波検査
がん性疼痛緩和指導管理料	神経学的検査
がん患者指導管理料1	補聴器適合検査
がん患者指導管理料2	内服・点滴誘発試験
がん患者指導管理料3	センチネルリンパ節生検(片側)
外来緩和ケア管理料	画像診断管理加算1
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	CT撮影及びMRI撮影(16列以上64列未満CT、1.5テスラ以上3テスラ未満MRI)
糖尿病透析予防指導管理料	冠動脈CT撮影加算
院内トリアージ実施料	大腸CT撮影加算
ニコチン依存症管理料	心臓MRI撮影加算
がん治療連携計画策定料	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
肝炎インターフェロン治療計画料	外来化学療法加算1
薬剤指導管理料	無菌製剤処理料
医療機器安全管理料1	心大血管疾患リハビリテーション料(I)
医療機器安全管理料2	脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
医療機器安全管理料(歯科)	運動器リハビリテーション料(I)
歯科治療総合医療管理料	呼吸器リハビリテーション料(I)
持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	がん患者リハビリテーション料
遺伝学的検査	集団コミュニケーション療法料
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	歯科口腔リハビリテーション料2
検体検査管理加算(I)	認知療法・認知行動療法1
検体検査管理加算(IV)	精神科ショート・ケア「小規模なもの」
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	精神科デイ・ケア「小規模なもの」
胎児心エコー法	治療抵抗性統合失調症治療指導管理料(治療抵抗性統合失調治療指導管理料に限る)

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
医療保護入院等診療料	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
透析液水質確保加算2	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
手術用顕微鏡加算	補助人工心臓(平成29年4月30日辞退)
歯科技工加算	胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る)
悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	体外衝撃波胆石破碎術
組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	腹腔鏡下肝切除術
骨移植術(軟骨移植術を含む)(自家培養軟骨移植術に限る)	体外衝撃波膵石破碎術
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)又は脳刺激装置交換術	腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術
仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
網膜再建術	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術、植込型骨導補聴器交換術	同種死体腎移植術
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	生体腎移植術
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)(医科)	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)(歯科)	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
乳がんセンチネルリンパ節加算1(併用法)	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
乳がんセンチネルリンパ節加算2(単独法)	胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む)
乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	輸血管管理料I
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
経カテーテル大動脈弁置換術	歯周組織再生誘導手術
胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術(平成29年4月30日辞退)	広範囲顎骨支持型装置埋入手術







## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

### 1 研究費補助等の実績

(単位:千円)

研究課題	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
紀伊ALS/PDCに対する最新の包括的神経科学研究によるALS治療シーズの創出	伊東 秀文	神経内科学	5,980	補委 日本学術振興会
がんの発育と痛みにおける痛覚神経とがんのクロストークの解明	川股 知之	麻酔科学	4,420	補委 日本学術振興会
肺癌に対するiPS細胞由来樹状細胞を応用した革新的ペプチドワクチン療法の開発	山上 裕機	外科学第二	3,770	補委 日本学術振興会
野生株ポリオとワクチンポリオの相違についての比較検討	青木 秀哲	リハビリテーション科学	1,300	補委 日本学術振興会
拡張期心筋血流予備量比による心筋虚血評価の有用性と臨床応用	赤阪 隆史	内科学第四	1,950	補委 日本学術振興会
遺伝子改変動物を用いた消化管ホルモンと糖代謝に対するグレリンの作用の解明	赤水 尚史	内科学第一	1,690	補委 日本学術振興会
腫瘍局所におけるIL23/Th17 pathway制御による新規分子標的の開発	飯田 武	外科学第二	650	補委 日本学術振興会
胃-腸-骨連関による骨の慢性炎症の解明	井口 幹崇	内科学第二	1,040	補委 日本学術振興会
温熱負荷した運動時の活性酸素種とインターロイキン6分泌の関係	伊藤 倫之	リハビリテーション科学	1,560	補委 日本学術振興会
免疫調節性ペプチドとSiglecリガンドによるパセドウ病の抗原特異的新規治療法	稲葉 秀文	内科学第一	1,170	補委 日本学術振興会
ケモカインと免疫抑制シグナル及び血管内皮前駆細胞との相互的な卵巣癌促進機構の解明	井寛 一彦	産科・婦人科学	1,430	補委 日本学術振興会
心筋梗塞後の冠血管プラークの不安定化の機序とその治療法	今西 敏雄	内科学第四	1,560	補委 日本学術振興会
肥満治療を目指したグレリン活性制御法の探索	岩倉 浩	内科学第一	1,430	補委 日本学術振興会
低侵襲脊椎手術実現のための新しい電極付硬膜外内視鏡の開発	岩崎 博	整形外科	1,950	補委 日本学術振興会
外傷後AKI（急性腎障害）に対する尿細管細胞死制御による遺伝子治療の開発	上田 健太郎	救急・集中治療医学	1,040	補委 日本学術振興会
治療抵抗性うつ病のGABA機能評価によるrTMSの治療機作と反応性予測指標の解明	鵜飼 聡	神経精神医学	650	補委 日本学術振興会
肺癌抗癌剤治療におけるホルミンス抑制療法の開発	大橋 拓矢	外科学第一	1,690	補委 日本学術振興会
神経麻痺性角膜炎に対するTRPチャネルを標的とした新規治療法の開発	岡田 由香	眼科学	1,300	補委 日本学術振興会
細胞生着人工心膜シートを用いた心不全に対する新たな再生医療の開発	岡村 吉隆	外科学第一	780	補委 日本学術振興会
ヒト腫瘍抗原遺伝子導入iPS細胞由来樹状細胞を用いた癌ワクチン療法	尾島 敏康	外科学第二	650	補委 日本学術振興会
XCR1+DCへ抗原を選択的に送達する新規がんペプチドワクチン戦略の開発	勝田 将裕	外科学第二	1,560	補委 日本学術振興会
パネル遺伝子解析による新規プロテアソーム機能不全症の同定と病態解明	金澤 伸雄	皮膚科学	1,560	補委 日本学術振興会
HMGBl蛋白過剰発現間葉系幹細胞移植を用いた心不全に対する再生医療の開発	金子 政弘	救急・集中治療医学	1,950	補委 日本学術振興会
走運動による神経障害性疼痛の緩和に対するGABA作動性ニューロンの関与	上 勝也	リハビリテーション科学	1,690	補委 日本学術振興会
胆汁中サイトカイン網羅的解析による胆道ドレナージ後膵切術後合併症早期診断法の確立	川井 学	外科学第二	650	補委 日本学術振興会

小計 25

徐放化basic-FGF製剤の胸腔内投与による肺気腫に対する再生医療の臨床試験	川後 光正	外科学第一	1,560	補委	日本学術振興会
増加する川崎病の発症促進因子と抑制因子を明らかにする地域ベースの症例対照研究	北野 尚美	地域医療支援センター	1,430	補委	日本学術振興会
中條-西村症候群様症状を呈する孤発例における新規PSMB9変異の病的意義の解明	国本 佳代	皮膚科学	1,560	補委	日本学術振興会
急性心筋梗塞の発症に関わる動脈硬化性脂質コアを検出できる光干渉断層法の開発	久保 隆史	内科学第四	650	補委	日本学術振興会
壊死性腸炎発症における サイトカインストームの病態解明と治療戦略	窪田 昭男	外科学第二	650	補委	日本学術振興会
VHL変異を標的とした悪性胸膜中皮腫の新規治療法開発研究	洪 泰浩	内科学第三	2,340	補委	日本学術振興会
腎乳頭部CT値による尿路結石再発予測ツールの開発	柑本 康夫	泌尿器科学	1,300	補委	日本学術振興会
デスモゾーム・中間径フィラメント関連因子の角膜上皮での役割についての研究	小門 正英	眼科学	1,040	補委	日本学術振興会
TGFβシグナルのTRPによる調節を標的とした眼線維化疾患の新規治療戦略の確立	雑賀 司珠也	眼科学	1,300	補委	日本学術振興会
脳部位間結合性の包括的な神経生理学的検討による統合失調症と気分障害の病態解明	篠崎 和弘	神経精神医学	650	補委	日本学術振興会
尿バイオマーカーによる小児IgA腎症新規診断法の確立	島 友子	小児科学	1,300	補委	日本学術振興会
ムチン16の常在細菌と点眼防腐剤に対する眼表面炎症制御での役割の解明	白井 久美	眼科学	910	補委	日本学術振興会
川崎病発症に関与する複数スーパー抗原解明への新たなアプローチ	鈴木 啓之	小児科学	2,080	補委	日本学術振興会
運動療法による疼痛緩和のメカニズム：エピジェネティクス修飾の網羅的解析	仙波 恵美子	リハビリテーション科学	1,040	補委	日本学術振興会
老化によるサルコペニアの機序の解明-慢性腎臓病モデルを利用して-	園生 智広	腎臓内科学	2,600	補委	日本学術振興会
インフルエンザ菌バイオフィルムに対する抗菌薬の薬物動態についての研究	竹井 慎	耳鼻咽喉科学	1,040	補委	日本学術振興会
川崎病初期治療におけるシクロスポリンA作用メカニズムの新たな分子遺伝学的解明	武内 崇	小児科学	780	補委	日本学術振興会
ICU重症患者における急性期立位・運動負荷の検討	田島 文博	リハビリテーション科学	650	補委	日本学術振興会
前帯状皮質活性化が脊髄後角に下行性疼痛賦活系を形成するメカニズムの解析	谷口 亘	整形外科学	650	補委	日本学術振興会
高解像度OCTを開発し、生体内血管栄養血管が動脈硬化形成に果たす役割を解明する	樽谷 玲	内科学第四	1,690	補委	日本学術振興会
心筋梗塞後急性期における血糖日内変動の心筋救済に及ぼす影響とその治療法の確立	寺口 郁子	内科学第四	650	補委	日本学術振興会
口腔扁平上皮癌におけるPD-1とPD-L1の発現	東條 格	歯科口腔外科学	1,690	補委	日本学術振興会
急性中耳炎治療における肺炎球菌フェーズ変化と治療への応用	戸川 彰久	耳鼻咽喉科学	1,300	補委	日本学術振興会
TRPV1/TRPA1シグナルによる角膜リンパ管新生制御の解明とその阻害戦略	友寄 勝夫	眼科学	1,170	補委	日本学術振興会
豚タイプ2エンドリークモデルに対するNLEによる予防的癌内塞栓術の基礎的検討	中井 資貴	放射線医学	130	補委	日本学術振興会
脊椎内視鏡手術のための次世代ナビゲーションシステムの開発	中尾 慎一	整形外科学	1,430	補委	日本学術振興会
脊椎脊髄手術時の神経機能モニタリングにおける新しい大脳刺激法の開発	中川 幸洋	整形外科学	390	補委	日本学術振興会
マイクロRNAに着目した多発性嚢胞腎病態生理に基づく疾患特異的治療の開発	中西 浩一	小児科学	1,300	補委	日本学術振興会

小計 28

癌幹細胞を標的としたiPS細胞由来細胞傷害性T細胞を用いた新規癌免疫療法の開発	中村 公紀	外科学第二	780	補委	日本学術振興会
胃癌治療用個別化対応ウイルスの改良と効果予測モデルの確立	中森 幹人	外科学第二	1,040	補委	日本学術振興会
紀伊ALS/PDCのタウイメージング	中山 宜昭	神経内科学	1,690	補委	日本学術振興会
腰椎部脊柱管外病変に係る難治性疼痛のメカニズム解明と治療法開発	西 秀人	整形外科学	910	補委	日本学術振興会
In vivo パッチクランプ法による鍼灸鎮痛メカニズムの解明	西尾 尚子	整形外科学	650	補委	日本学術振興会
ブランク内新生血管の三次元構造構築過程の解明：VEGFファミリーの役割	西口 毅	内科学第四	1,690	補委	日本学術振興会
てんかん外科における安静時機能的MRIと頭蓋内脳波の検討	西林 宏起	脳神経外科学	650	補委	日本学術振興会
胸部大動脈瘤の大動脈ブランクに対するバイオマーカーとしてのシスタチンCの意義	西村 好晴	外科学第一	1,170	補委	日本学術振興会
サルコペニアと脊椎アライメント変化に着目した運動機能低下診断・予測ツールの開発	橋爪 洋	整形外科学	1,040	補委	日本学術振興会
非侵襲的自律神経評価方法の開発と臨床応用	羽野 卓三	教育研究開発センター	910	補委	日本学術振興会
癌幹細胞を標的とした樹状細胞による免疫療法の開発	原 勲	泌尿器科学	1,040	補委	日本学術振興会
和歌山県ALS多発地における認知症とパーキンソン認知症複合の発症状況に関する研究	廣西 昌也	神経内科学	1,430	補委	日本学術振興会
カクテルペプチドワクチン療法とS-1隔日投与を併用した低侵襲な新規膀胱癌治療の開発	廣野 誠子	外科学第二	1,560	補委	日本学術振興会
中枢神経ループス患者髄液中のサイトカインを規定する因子に関する研究	藤井 隆夫	リウマチ・膠原病科学	1,300	補委	日本学術振興会
survivin導入樹状細胞と新規癌抗原C10orf3を併用した遺伝子免疫療法	藤井 令央奈	泌尿器科学	910	補委	日本学術振興会
脳室内出血における新規治療開発を目指した鉄イオン誘発神経細胞障害の機能解析	藤田 浩二	救急・集中治療医学	1,430	補委	日本学術振興会
智歯抜歯時に生じた舌神経障害の疼痛を抑制する手技開発	藤田 茂之	歯科口腔外科学	2,340	補委	日本学術振興会
母体免疫による母乳を介した免疫再構築による乳幼児期感染予防の新戦略の研究	保富 宗城	耳鼻咽喉科学	1,560	補委	日本学術振興会
OCT-guided冠動脈バイパス手術の安全性および有用性	本田 賢太郎	外科学第一	1,820	補委	日本学術振興会
梅根取習慣が腸内細菌叢と免疫能・消化器疾患に及ぼす影響の検討	前北 隆雄	内科学第二	3,640	補委	日本学術振興会
大動脈弁狭窄症に合併した冠動脈狭窄病変の機能的評価法の確立	松尾 好記	内科学第四	2,080	補委	日本学術振興会
樹状細胞サブセットに着目した新規癌ワクチン療法の開発	松田 健司	外科学第二	1,690	補委	日本学術振興会
GC療法による術前化学療法の薬学的バイオマーカーを用いた個別化療法の確立	松村 永秀	泌尿器科学	2,210	補委	日本学術振興会
普及版COPD身体活動性評価法の確立とテーラーメイド治療の構築	南方 良章	内科学第三	1,430	補委	日本学術振興会
FGF23-Klothoシグナルの電解質代謝と免疫における生物学的役割の比較検討	美馬 亨	腎臓内科学	2,340	補委	日本学術振興会
2次元レーザー血流測定システムを用いた低侵襲的診断・治療法の口腔外科領域への導入	宮崎 英隆	形成外科学	4,160	補委	日本学術振興会
廃用性骨格筋萎縮におけるバイオマーカーの確立とその臨床的有用性の検討	村田 颯也	神経内科学	1,430	補委	日本学術振興会
尿路上皮癌の高悪性度化にはγチューブリンと染色体不安定性が中心的役割を果たす	村田 晋一	人体病理学	1,690	補委	日本学術振興会

小計 28

新しい疾患概念としての脊髄後弯症による筋疲労性軸性疼痛の解明	山田 宏	整形外科学	1,170	補委	日本学術振興会
デジタルPCRを用いた超高感度マルチプレックス変異検出法の確立とその臨床的検討	山本 信之	内科学第三	1,950	補委	日本学術振興会
うつ病リワークプログラムによるToM課題障害改善の可能性と脳機能画像の変化の検討	山本 眞弘	神経精神医学	650	補委	日本学術振興会
Exosomal CEACAM1をターゲットとした大腸癌新規腫瘍マーカーの開発	横山 省三	外科学第二	1,040	補委	日本学術振興会
肺癌における転移先臓器特異性決定遺伝子群による制御機構の解析	吉増 達也	外科学第一	1,300	補委	日本学術振興会
壊死性腸炎発症の解明：microchimerism可視化ラットを用いたアプローチ	渡邊 高士	外科学第二	910	補委	日本学術振興会
ヘリオックス吸入を用いた胸腔鏡下肺葉切除術の開発	粉川 庸三	外科学第一	1,040	補委	日本学術振興会
免疫抑制機構克服とオートファジー誘導ウイルス療法を併用した新規膵癌治療の開発	山上 裕機	外科学第二	1,300	補委	日本学術振興会
血中腫瘍由来DNAを用いた免疫チェックポイント阻害剤の効果予測バイオマーカー研究	赤松 弘朗	内科学第三	2,210	補委	日本学術振興会
次世代シーケンサーを用いた誤嚥性肺炎の新たな診断法およびオーダーメイド治療の確立	家田 晋輔	歯科口腔外科学	1,300	補委	日本学術振興会
LOXL1遺伝子発現低下とTGFβに注目した落屑症候群合併症抑制の新規戦略の樹立	石川 伸之	眼科学	1,040	補委	日本学術振興会
プロテアソーム機能不全単球からのIFN誘導ケモカインIP-10の産生機序の解明	稲葉 豊	皮膚科学	1,950	補委	日本学術振興会
メタボリックシンドロームの改善による尿路結石症予防効果の検討	射場 昭典	泌尿器科学	1,170	補委	日本学術振興会
大腿骨頸部骨折術後患者のリハビリテーションにおける至適栄養量に関する研究	梅本 安則	リハビリテーション科学	520	補委	日本学術振興会
急性心筋梗塞後の微小循環障害における単球サブセットの関与と治療法の確立	尾崎 雄一	内科学第四	1,430	補委	日本学術振興会
大動脈弁通過血流解析システムの開発および弁石灰化に与える影響の解明	折居 誠	内科学第四	1,430	補委	日本学術振興会
シクロスポリンAとIVIgに対する免疫応答の相違分析による難治性川崎病の病態解明	垣本 信幸	小児科学	1,040	補委	日本学術振興会
びまん性特発性骨増殖症の子後と脊椎椎体骨折との関連：住民コホートの追跡	籠谷 良平	整形外科学	520	補委	日本学術振興会
脊髄損傷者の高温環境における体温・循環調節に関する研究	河崎 敬	リハビリテーション科学	910	補委	日本学術振興会
視床障害者における皮膚交感神経活動測定と局所温熱療法の作用機序の解明	神埜 奈美	リハビリテーション科学	520	補委	日本学術振興会
がん免疫機構を複合した革新的コンセプトによる肺癌治療戦略の設計と導入	北畑 裕司	外科学第二	1,560	補委	日本学術振興会
マウスを用いTRPA1イオンチャンネルに着目した脈絡膜血管新生の新規治療戦略の確立	楠本 恵子	眼科学	1,170	補委	日本学術振興会
術後認知機能障害と麻酔：fMRI機能的結合性解析による脳神経ネットワークの新研究	黒崎 弘倫	中央手術部	1,170	補委	日本学術振興会
卵巣癌進展におけるケモカイン受容体CCR5の病態生理学的役割と新規標的治療の開発	小林 彩	産科・婦人科学	1,300	補委	日本学術振興会
浸潤規定遺伝子を用いた新規膵癌ペプチドワクチン療法の開発	清水 敦史	外科学第二	1,690	補委	日本学術振興会
血栓性動脈硬化の経時的変化と臨床への影響について	下角 あい子	内科学第四	1,950	補委	日本学術振興会
1児SGAの2絨毛膜双胎モデルによる胎児発育不全発症機序と予後予測因子の解明	城 道久	産科・婦人科学	650	補委	日本学術振興会
統合失調症におけるアセチルコリン、GABA/グルタミン酸機能と認知機能障害の関連	高橋 隼	神経精神医学	650	補委	日本学術振興会

小計 28

EGFR変異肺癌における次世代治療戦略確立へ向けた基盤研究	田中 彩加	内科学第三	2,080	(補委)	日本学術振興会
造影剤腎症の予防にカルシウムブロッカーの投与は有効か	田中 真生	救急・集中治療医学	1,170	(補委)	日本学術振興会
遺伝子塩基多型解析から検証する妊娠期薬剤性冠動脈収縮作用の解明	谷奥 匡	中央手術部	260	(補委)	日本学術振興会
卵巣癌におけるCX3CL1-CX3CR1システムの分子病態生理学的役割の解明	谷崎 優子	産科・婦人科学	1,040	(補委)	日本学術振興会
小児血球食食症候群におけるHMGB1の研究	辻本 弘	小児科学	910	(補委)	日本学術振興会
住民コホート研究の追跡調査による脊椎退行性変化の危険因子と頸部痛・腰痛の解明	寺口 真年	整形外科学	1,040	(補委)	日本学術振興会
妊娠高血圧時脳ネットワーク異常と麻酔：安静時機能的磁気共鳴画像法による新研究	直川 里香	麻酔科学	1,170	(補委)	日本学術振興会
消化器癌腹膜転移に対するIL-17をターゲットとした新規分子標的療法の開発	早田 啓治	外科学第二	650	(補委)	日本学術振興会
脱メチル化酵素LSD1をターゲットとした新規分子標的治療薬の開発と応用	速水 晋也	外科学第二	650	(補委)	日本学術振興会
グレリンアシル化基質供給源の解明	坂東 美佳	内科学第一	1,690	(補委)	日本学術振興会
マイボーム腺機能不全モデルでのPPAR $\gamma$ 活性化、遺伝子導入による治療効果の検討	藤田 周子	眼科学	910	(補委)	日本学術振興会
眼表面アルカリ暴露時のマイボーム腺障害の病態解析と新しい治療戦略の確立	藤田 識人	眼科学	1,040	(補委)	日本学術振興会
甲状腺クリーゼモデル確立とグレリンの臨床応用への基礎的研究	古川 安志	内科学第一	1,040	(補委)	日本学術振興会
子宮内膜症におけるケモカインシステムの分子病理学的研究	溝口 美佳	産科・婦人科学	1,430	(補委)	日本学術振興会
CEACAM1誘導薬剤による肝芽腫の抗癌剤感受性増強に関する基礎的臨床的研究	三谷 泰之	外科学第二	650	(補委)	日本学術振興会
プロテアソームの形態制御によるユビキチン融合遺伝子導入樹状細胞癌ワクチンの新戦略	宮澤 基樹	外科学第二	650	(補委)	日本学術振興会
神経ネットワークに着目した治療抵抗性うつ病へのECTとrTMSの治療機作の解明	山田 信一	神経精神医学	650	(補委)	日本学術振興会
胎盤絨毛細胞における分子シャペロンカルレティキュリンの産生とその細胞機能の解明	山本 円	総合周産期母子医療センター	1,170	(補委)	日本学術振興会
冠動脈血流解析に基づいた最適な大動脈弁位生体弁の形状評価	湯崎 充	外科学第一	1,950	(補委)	日本学術振興会
ホルモン受容機構異常に関する調査研究	赤水尚史	内科学第1	6,630	(補委)	厚生労働省
ホルモン受容機構異常症診療ガイドライン作成のためのエビデンス構築に関する研究	赤水尚史	内科学第1	9,880	(補委)	日本医療研究開発機構
血中循環腫瘍細胞を用いた肺がん薬物療法における効果予測バイオマーカーの開発とその診断技術の確立	山本信之	内科学第三	25,000	(補委)	日本医療研究開発機構
地域・職種間連携を担うがん専門医療者育成	山本信之	内科学第三	5,150	(補委)	文部科学省
					小計 23

(注)1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なもの

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

合計 132



(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Bando M, Iwakura H, Koyama H, et al.	内科学第一講座	High incorporation of long-chain fatty acids contributes to the efficient production of acylated ghrelin in ghrelin-producing cells.	FEBS Lett.590(7):992-1001,2016	Original Article
2	Inaba H, De Groot LJ, Akamizu T	内科学第一講座	IL-1 $\beta$ directly suppress ghrelin mRNA expression in ghrelin-producing cells.	Front Endocrinol (Lausanne).7:120,2016	Original Article
3	Bando M, Iwakura H, Ueda Y, et al.	内科学第一講座	Physiological significance of ghrelin revealed by studies using genetically engineered mouse models with modifications in the ghrelin system.	Mol Cell Endocrinol.447:45-51,2017	Original Article
4	Hayata A	内科学第三講座	Differences in physical activity according to mMRC grade in patients with COPD	Int J Chron Obstruct Pulmon Dis.2016 Sep	Original Article
5	Tanaka A	内科学第四講座	Bioresorbable scaffold-Taking the edge off?	Circ J.2016 Apr 25;80(5):1100-1.	Review
6	Tanaka A, Shimada K	内科学第四講座	Enhanced vasa vasorum formation at spasm site-coincident plexus or external pathogenic routes?	Circ J.2016 Sep 23;80(10):2100-1.	Review
7	Shimamura K, Guagliumi G	内科学第四講座	Optical coherence tomography for online guidance of complex coronary interventions.	Circ J.2016 Sep 23;80(10):2063-72.	Review
8	Kubo T, Shinke T, Okamura T, et al.	内科学第四講座	Optical frequency domain imaging vs.intrabascular ultrasound in percutaneous coronary intervention(OPINION trial): Study Protocol for A Randomized Contorlled Trial	J Cardiol.2016 Nov;68(5):455-460.	Original Article
9	Shiono Y, Kubo T, Honda K, et al.	内科学第四講座	Impact of functional focal versus diffuse coronary artery disease on bypass graft patency.	Int J Cardiol.2016 Nov 1;222:16-21	Original Article
10	Nishiguchi T, Tanaka A, Taruya A, et al.	内科学第四講座	Local matrix metalloproteinase 9 level determines early clinical presentation of ST-segment-elevation myocardial infarction.	Arterioscler Thromb Vasc Biol.2016 Dec;36(12):2460-2467	Original Article
11	Ino Y, Kubo T, Matsuo Y, et al.	内科学第四講座	Optical coherence tomography predictors for edge, restenosis after everolimus-eluting stent implantation.	Circ Cardiovasc Interv.2016 Oct;9(10).pii:e004231	Original Article
12	Shimamoto Y, Kubo T, Tanabe K, et al.	内科学第四講座	Effects of intravenous bolus injection of nicorandil on renal artery flow velocity assessed by color Doppler ultrasound.	J Cardiol.2017 Jan;69(1):364-368.	Original Article
13	Kubo T, Ino Y, Matsuo y, et al.	内科学第四講座	Reduction of in-stent thrombus immediately after percutaneous coronary intervention by pretreatment with prasugrel compared with clopidogrel: An optical coherence tomography study.	J Cardiol.2017 Feb;69(2):436-441.	Original Article
14	Kubo T, Katayama Y, Emori H, et al.	内科学第四講座	Clinical and technical update on intracoronary optical coherence tomography.	J Jpn Coron Assoc 2017;23:41-7	Review
15	Kitabata H, Akasaka T	内科学第四講座	Percutaneous coronary intervention with newer generation stents.	Coronary Graft Failure: States of the Art, 1st edition,pp.643-647, Springer,2016	Review
16	Ino Y, Kubo T, Matsuo Y, et al.	内科学第四講座	Assessment of Vascular Response after Stent Implantation by IntracoronaryOptical Coherence Tomography.	Journal of Cardiology and Therapeutics, 2016; 4(1),21-33.	Review

計16件

17	Murata S, Mushino T, Hosoi H, 他	血液内科学講座	Extracorporeal antimicrobial elimination enables antimicrobial mixing and affects resident bacteria.	J. Antimicrob Chemother. 2016 May;71(5):1430-2	Original Article
18	Hosoi H, Warigaya K, Murata S, 他	血液内科学講座	Refractory Ascites with Liver Fibrosis Developed in Late Phase Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation: Report of Three Patients.	Hematol Rep. 2016 Jun 27;8(2):6482.	Case report
19	Yamashita Y, Tamura S, Oiwa T, 他	血液内科学講座	Successful Intrathecal Chemotherapy Combined with Radiotherapy Followed by Pomalidomide and Low-Dose Dexamethasone Maintenance Therapy for a Primary Plasma Cell Leukemia Patient.	Hematol Rep. 2017 Feb 23;9(1):6986	Case report
20	Shima Y, Nakanishi K, Sato M, et al.	小児科学講座	IgA nephropathy with presentation of nephrotic syndrome at onset in children	Pediatr Nephrol. 2017 Mar;32(3):457-465.	Original Article
21	Ishida T, Donishi T, Iwatani J, et al	神経精神科学講座	Elucidating the aberrant brain regions in bipolar disorder using T1-weighted/T2-weighted magnetic resonance ratio images.	Psychiatry Research: Neuroimaging 263:76-84, 2017	Original Article
22	Ishida T, Donishi T, Iwatani J, et al	神経精神科学講座	Interhemispheric disconnectivity in the sensorimotor network in bipolar disorder revealed by functional connectivity and diffusion tensor imaging analysis.	Heliyon3 e00335, 2017	Original Article
23	Kitahata Y, Kawai M, Yamaue H	外科学第二講座	Clinical trials to reduce pancreatic fistula after pancreatic surgery-review of randomized controlled trials.	Transl Gastroenterol Hepatol 2016 Mar 16;1:4.	Review
24	Ojima T, Takifuji K, Nakamura M, et al.	外科学第二講座	Feasibility of Endoscopic Submucosal Dissection for Submucosal-invasive Gastric Cancer and the Predictors of Residual or Recurrent Cancer.	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech. 2016 Oct;26(5):401-405.	Original Article
25	Okada K, Kawai M, Hirono S, et al.	外科学第二講座	Impact of treatment duration of neoadjuvant FIRINOX in patients with borderline resectable pancreatic cancer: a pilot trial.	Cancer Chemother Pharmacol 2016 Oct; 78(4):719-726.	Original Article
26	Nakamura M, Nakamori M, Ojima T, et al.	外科学第二講座	The effects of rikkunshito on body weight loss after esophagectomy.	J Surg Res 2016 Jul;204(1):130-8.	Original Article
27	Kitahata Y, Kanuma T, Hayashi M, et al.	外科学第二講座	Circulating nano-particulate TLR9 agonist scouts out tumor microenvironment to release immunogenic dead tumor cells.	Oncotarget , 2016 Aug;7(31):48860-9.	Original Article
28	Kawai M, Hirono S, Okada KI, et al.	外科学第二講座	Randomized Controlled Trial of Pancreaticojejunostomy versus Stapler Closure of the Pancreatic Stump During Distal Pancreatectomy to Reduce Pancreatic Fistula.	Ann Surg 2016 Jul;264(1):180-7,	Original Article
29	Ueno M, Nakai T, Hayashi M, et al	外科学第二講座	Survival outcome of salvage hepatectomy in patients with local, recurrent hepatocellular carcinoma who underwent radiofrequency ablation as their first treatment	Surgery. 2016 160(3):661-70.	Original Article
30	Kawai M, Murakami Y, Motoi F, et al.	外科学第二講座	Grade B pancreatic fistulas do not affect survival after pancreatectomy for pancreatic cancer: A multicenter observational study.	Surgery 2016 Aug;160(2):293-305	Original Article
31	Nakamura M, Yamaue H	外科学第二講座	Reconstruction after proximal gastrectomy for gastric cancer in the upper third of the stomach: a review of the literature published from 2000 to 2014.	Surg Today 2016 May;46(5):517-27.	Review
32	Okada K, Kawai M, Hirono S, et al.	外科学第二講座	Evaluation of the efficacy of daikenchuto (TJ -100) for the prevention of paralytic ileus after pancreaticoduodenectomy: A multicenter, double-blind, randomized, placebo-controlled trial.	Surgery. 2016 May;159(5):1333-41.	Original Article

33	Ojima T, Nakamori M, Nakamura M, et al.	外科学第二講座	Expression of BRCA1, a factor closely associated with relapse-free survival, in patients who underwent neoadjuvant chemotherapy with docetaxel, cisplatin, and fluorouracil for squamous cell carcinoma of the esophagus.	Surg Today. 2017 Jan;47(1):65-73.	Original Article
34	Ojima T, Nakamori M, Nakamura M, et al.	外科学第二講座	Phase I/II study of divided-dose docetaxel, cisplatin and fluorouracil for patients with recurrent or metastatic squamous cell carcinoma of the esophagus.	Dis Esophagus. 2017 Feb 1;30(2):1-7.	Original Article
35	Okada KI, Hirono S, Kawai M, et al.	外科学第二講座	Phase I Study of Nab-Paclitaxel plus Gemcitabine as Neoadjuvant Therapy for Borderline Resectable Pancreatic Cancer.	Anticancer Res. 2017 Feb;37(2):853-858.	Original Article
36	Okada KI, Hirono S, Kawai M, et al.	外科学第二講座	Value of apparent diffusion coefficient prior to neoadjuvant therapy is a predictor of histologic response in patients with borderline resectable pancreatic carcinoma.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2017 Mar;24(3):161-168.	Original Article
37	Miyazawa M, Katsuda M, Maguchi H, et al.	外科学第二講座	Phase II clinical trial using novel peptide cocktail vaccine as a postoperative adjuvant treatment for surgically resected pancreatic cancer patients.	Int J Cancer. 2017 Feb 15;140(4):973-982.	Original Article
38	Okada K, Kawai M, Ueno M, et al.	外科学第二講座	Depth of Hepatic Infiltration and Lymph Node Swelling as Factors for Considering Surgery for T2-4 Gallbladder Carcinoma Patients.	Anticancer Res 2016 Jun;36(6):3075-80.	Original Article
39	Hirono S, Kawai M, Okada KI, et al.	外科学第二講座	Long-term surveillance is necessary after operative resection for intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas	Surgery 2016 Aug;160(2):306-317	Original Article
40	Hirono S, Kawai M, Okada KI, et al.	外科学第二講座	Treatment strategy for borderline resectable pancreatic cancer with radiographic artery involvement	Pancreas 2016 Nov;45(10):1438-1446	Original Article
41	Hirono S, Kawai M, Okada KI, et al.	外科学第二講座	Factors associated with invasive intraductal papillary mucinous carcinoma of the pancreas	JAMA Surgery 2017 Mar;152(3):e165054	Original Article
42	Matsuda Y, Terada T, Okada H, et al	脳神経外科学講座	Angiographic characteristics of pseudo-occlusion of the Internal carotid artery before and after stenting.	Neurosurgery .2016;79:832-838	Original Article
43	Yako R, Masuo O, Kubo K, et al	脳神経外科学講座	A case of dural arteriovenous fistula draining to the diploic vein presenting with intracerebral hemorrhage.	J Neurosurg.2016;124:726-729	Original Article
44	Fukai J, Nishibayashi H, Uematsu Y, et al	脳神経外科学講座	Rapid regression of glioblastoma after carmustine wafer implantation	Mol Clin Oncol. 2016;5:153-157	Case report
45	Tsutsui S, Yamada H	整形外科科学講座	Basic principles and recent trends of transcranial motor evoked potentials in intraoperative neurophysiologic monitoring.	Neuro Med Chir (Tokyo). 2016, 56:451-6	Original Article
46	Yukawa Y, Kato F, Suda K, et al.	整形外科科学講座	Normative data for parameters of sagittal spinal alignment in healthy subjects: an analysis of gender specific differences and changes with aging in 626 asymptomatic individuals.	Eur Spine J. 2016	Original Article
47	Minamide A, Yoshida M, Iwahashi H, et al.	整形外科科学講座	Minimally invasive decompression surgery for lumbar spinal stenosis with degenerative scoliosis: predictive factors of radiographic and clinical outcomes.	J Orthop Sci, 2016	Original Article
48	Takami M, Elwany A, Destandau J.	整形外科科学講座	Accuracy and evaluation of irradiation of novel localization devices with unique three-dimensional structures in microendoscopic spine surgery.	Eur J Orthop Surg Traumatol. 2016, 26:253-8	Original Article
49	Fukui D, Kawakami M, Nakao S, et al.	整形外科科学講座	Reduced blood loss and operation time in lumbar posterolateral fusion using a bipolar sealer.	Eur Spine J 2016	Original Article

50	Fukui D, Kawakami M, Cheng K, et al.	整形外科科学講座	Three-dimensional micro-computed tomography analysis for spinal instability after lumbar facetectomy in the rat.	Eur Spine J 2016	Original Article
51	Fukui D, Kawakami M, Cheng K, et al.	整形外科科学講座	Development of a support tool for the clinical diagnosis of symptomatic lumbar intra- and/or extra-foraminal stenosis.	Eur Spine J 2016	Original Article
52	Sonekatsu M, Taniguchi W, Yamanaka M,	整形外科科学講座	Interferon-gamma potentiates NMDA receptor signaling in spinal dorsal horn neurons via microglia-neuron interaction.	Molecular Pain 2016 12: 1-10	Original Article
53	Deguchi T, Tsutsui S, Iwahashi H, et al.	整形外科科学講座	Efficacy and Safety of High Frequency Electrical Multi-train Stimulation for Recording Transcranial Motor Evoked Potentials in Rats.	J Clin Monit Comput 2016	Original Article
54	Miyazaki T	形成外科学講座	Significance of the Lateral Thoracic Artery in Pectoralis Major Musculocutaneous Flap Reconstruction: Quantitative Assessment of Blood Circulation Using Indocyanine Green Angiography.	Ann Plast Surg. 2017 May 31	Original Article
55	Yamashita S, Kohjimoto Y, Iba A, et al	泌尿器科学講座	Stone size is a predictor for residual stone and multiple procedures of endoscopic combined intrarenal surgery.	Scand J Urol. 2017 Apr;51(2):159-164	Original Article
56	Yamashita S, Umemoto H, Kohjimoto Y, et al	泌尿器科学講座	Xanthogranulomatous orchitis after blunt testicular trauma mimicking a testicular tumor: A case report and comparison with published cases.	Urol J. 2017 May 23;14(3):3094-3096.	Case report
57	Matsumura N, Nakamura Y, Kohjimoto Y, et al	泌尿器科学講座	Overexpression of ribonucleotide reductase subunit M1 protein predicts shorter survival in metastatic bladder cancer patients treated with gemcitabine-containing combination chemotherapy.	Int J Urol. 2017 Mar;24(3):230-235.	Original Article
58	Yamashita S, Kohjimoto Y, Iguchi T, et al	泌尿器科学講座	Variation Coefficient of Stone Density: A Novel Predictor of the Outcome of Extracorporeal Shockwave Lithotripsy.	J Endourol. 2017 Apr;31(4):384-390.	Original Article
59	Yamashita S, Kohjimoto Y, Iguchi T, et al	泌尿器科学講座	Prognostic factors and risk stratification in patients with castration-resistant prostate cancer receiving docetaxel-based chemotherapy.	BMC Urol. 2016 Mar 22;16:13	Original Article
60	Koike H, Kohjimoto Y, Iba A, et al	泌尿器科学講座	Health-related quality of life after robot-assisted radical prostatectomy compared with laparoscopic radical prostatectomy.	J Robot Surg. 2017 11(3):325-331	Original Article
61	Yahata T, Yagi S, Mabuchi Y, et al.	産科婦人科学講座	Prognostic impact of primary tumor SUVmax on preoperative 18F-fluoro-2-D-glucose positron emission tomography and computed tomography in endometrial cancer and uterine carcinosarcoma.	Mol Clin Oncol 5:467-474,2016	Original Article
62	Yagi S, Yahata T, Mabuchi Y, et al.	産科婦人科学講座	Primary tumor SUVmax on preoperative FDG-PET/CT is a prognostic indicator in stage I A - II B cervical cancer patients treated with radical hysterectomy.	Mol Clin Oncol 5:216-222,2016	Original Article
63	Iwahashi N, Mabuchi Y, Shiro M, et al.	産科婦人科学講座	Large uterine pyomyoma in a perimenopausal female: A case report and review of 50 reported cases in the literature.	Mol Clin Oncol 5:527-531,2016	Original Article
64	Iwahashi N, Ota N, Shiro M, et al	産科婦人科学講座	Vasa previa evaluated by non-contrast time-of-flight magnetic resonance angiography.	Taiwan J Obstet Gynecol 55:585-587,2016	Original Article
65	Hayashi Y, Miyamoto T, Fujita S, et al.	眼科学講座	Bacteriology of the conjunctiva in pre-cataract surgery patients with occluded nasolacrimal ducts and the operation outcomes in Japanese patients.	BMC Ophthalmol. 2017 Feb 20; 17(1): 15.	Original Article

66	Okada Y, Shirai K, Miyajima M, et al.	眼科学講座	Loss of TRPV4 Function Suppresses Inflammatory Fibrosis Induced by Alkali-Burning Mouse Corneas.	PloS One. 2016 Dec 28; 11(12): e0167200.	Original Article
67	Kokado M, Okada Y, Miyamoto T, et al.	眼科学講座	Effects of epiplakin-knockdown in cultured corneal epithelial cells.	BMC Res Notes. 2016 May 20; 9: 278.	Original Article
68	Nakajima K, Hotomi M, Hiraoka M et al.	耳鼻咽喉科学講座	Molecular epidemiology of nonencapsulated Streptococcus pneumoniae among Japanese children with acute otitis media.	J Infect Chemother. 22:72-7, 2016.	Original Article
69	Hotomi M, Yuasa J, Briles DE et al.	耳鼻咽喉科学講座	Pneumolysin plays a key role at the initial step of establishing pneumococcal nasal colonization.	Folia Microbiol (Praha). 61:375-83, 2016.	Original Article
70	Kono M, Zafar MA, Zuniga M et al.	耳鼻咽喉科学講座	Single Cell Bottlenecks in the Pathogenesis of Streptococcus pneumoniae.	PLoS Pathog. 12:e1005887, 2016.	Original Article
71	Kanazawa N, Tchernev G, Chokoeva AA. et al.	皮膚科学講座	Interstitial granulomatous dermatitis demonstrating small, discrete skin-colored papules.	J Biol Regul Homeost Agents 30: 49-52, 2016	Case report
72	Yoshimasu T, Furukawa F	皮膚科学講座	Multiple courses of pulse corticosteroid therapy for alopecia areata.	J Dermatol 43: 1075-1077, 2016	Original Article
73	Kaminaka C, Furukawa F, Yamamoto Y	皮膚科学講座	Long-term clinical and histological effects of a bipolar fractional radiofrequency system in the treatment of facial atrophic acne scars and acne vulgaris in Japanese patients: a series of 8 cases.	Photomed Laser Surg 34: 657-660, 2016	Original Article
74	Kunimoto K, Furukawa F, Uede M.	皮膚科学講座	The continued use of sunscreen prevents the development of actinic keratosis in aged Japanese subjects.	Exp Dermatol Suppl 3: 34-40, 2016	Original Article
75	Shimomatsu T, Kanazawa N, Mikita N,	皮膚科学講座	The effect of hydroxychloroquine on lupus erythematosus-like skin lesions in MRL/lpr mice.	Mod Rheumatol 26: 744-748, 2016	Original Article
76	Shima T, Yamamoto Y, Okuhira H,	皮膚科学講座	A patient with refractory psoriasis who developed sebaceous carcinoma on the neck during cyclosporine therapy and showed rapid progression.	Case Rep Dermatol 8: 136-141, 2016	Case report
77	Mizuno M, Kunimoto K, Naru E, et.al.	皮膚科学講座	The effects of continuous application of sunscreen on photoaged skin in Japanese elderly people - The relationship with the usage.	Clin Cosmet Investig Dermatol 9: 95-105, 2016	Original Article
78	Fujimoto M, Yamamoto Y, Matsuzaki I, et.al.	皮膚科学講座	Tumor budding is an independent risk factor for lymph node metastasis in cutaneous squamous cell carcinoma: a single center retrospective study.	J Cutan Pathol 43: 766-771, 2016	Original Article
79	Reich A, Werth VP, Furukawa F, Kuhn A, et.al.	皮膚科学講座	Treatment of cutaneous lupus erythematosus: current practice variations.	Lupus 25: 964-972, 2016	Original Article
80	Tanaka M, Yamamoto Y, Misawa E, et al.	皮膚科学講座	Aloe sterol supplementation improves skin elasticity in Japanese men with sunlight-exposed skin: a 12-week double-blind, randomized controlled trial.	Clin Cosmet Investig Dermatol 9: 435-442, 2016	Original Article
81	Nakai M, Ikoma A, Sato M, et al.	放射線医学講座	Prophylactic Intraoperative Embolization of Abdominal Aortic Aneurysm Sacs Using N-Butyl Cyanoacrylate/Lipiodol/Ethanol Mixture with Proximal Neck Aortic Balloon Occlusion during Endovascular Abdominal Aortic Repair.	J Vasc Interv Radiol. 2016 Jul;27	Original Article
82	Ikoma A, Nakai M, Sato M, et al.	放射線医学講座	Systolic Sac Pressure Index for the Prediction of Persistent Type II Endoleak for 12 Months After Endovascular Abdominal Aortic Aneurysm Repair.	Cardiovasc Intervent Radiol. 2016 Apr	Original Article
83	Kami K, Tajima F, Senba E	リハビリテーション医学講座	Exercise-induced hypoalgesia: potential mechanisms in animal models of neuropathic pain.	Anat Sci Int. 2017年1月1日; 92(1): 79-90.	Review

計18件

84	Tanina H, Nishimura Y, Tsuboi H et al.	リハビリテーション医学講座	Fatigue-related differences in erector spinae between prepubertal children and young adults using surface electromyographic power spectral analysis.	J Back Musculoskelet Rehabil. 2016年12月20日; 30(1): 1-9.	Original Article
85	Kawazu T, Nakamura T, Moriki T et al.	リハビリテーション医学講座	Aerobic Exercise Combined With Noninvasive Positive Pressure Ventilation Increases Serum Brain-Derived Neurotrophic Factor in Healthy Males.	PM R. 2016年12月1日; 8(12): 1136-1141.	Original Article
86	Kami K, Taguchi Ms S, Tajima F et al.	リハビリテーション医学講座	Improvements in impaired GABA and GAD65/67 production in the spinal dorsal horn contribute to exercise-induced hypoalgesia in a mouse model of neuropathic pain.	Mol Pain. 2016; 12: 1744806916629059. (Online)	Original Article
87	Ishida K, Nakamura T, Kimura K et al.	リハビリテーション医学講座	Suppression of activation of muscle sympathetic nerve during non-noxious local cooling after the end of local cooling in normal adults.	Eur J Appl Physiol. 2016年4月; 116(4): 851-858.	Original Article
88	Kami K, Taguchi S, Tajima F et al.	リハビリテーション医学講座	Histone Acetylation in Microglia Contributes to Exercise-Induced Hypoalgesia in Neuropathic Pain Model Mice.	J Pain. 2016年5月; 17(5): 588-599.	Original Article
89	Kinoshita T, Nishimura Y, Nakamura T et al.	リハビリテーション医学講座	Ankle Foot Orthosis Improves Functional Ambulation and Balance in Patients with Peripheral Nerve Palsy.	J Spine. 2016年10月19日; 5(5): 1000337 (Online)	Original Article
90	Tajima F, Kamiyo Y, Sumiya T et al.	リハビリテーション医学講座	Physiological basis and practice of rehabilitation medicine in the management of individuals with spinal cord injury.	Clinical & Experimental Neuroimmunology. 2017年1月11日; 8 (Issue S1): 47-53.	Review
91	Miyamoto K	救急集中治療医学講座	Prolonged direct hemoperfusion using a polymyxin B immobilized fiber cartridge provides sustained circulatory stabilization in patients with septic shock:a retrospective observational before-after study	Journal of Intensive care 2017 5:19	Original Article
92	Shibata N	救急集中治療医学講座	Early enteral levetiracetam in diazepam-resistant convulsive status epilepticus	Neurology and clinical Neuroscience 4 2016 209-214	Original Article
93	Kosei K	救急集中治療医学講座	Outcomes of abdominal trauma patients with hemorrhagic shock requiring emergency laparotomy: efficacy of intra-aortic balloon occlusion	Acute Medicine & Surgery2016 3: 345-350	Original Article
94	Yoshida A, Kimoto Y, Ejiri K, et al.	麻酔科学講座	Anesthetic management of a patient with Factor VII deficiency undergoing laparoscopic colectomy	JA Clinical Reports 2016;2:30	Case report
95	Itonaga M, Matsuzaki I, Warigaya K, et al	内科学第二講座	Novel Methodology for Rapid Detection of KRAS Mutation Using PNA-LNA Mediated Loop-Mediated Isothermal Amplification	PLoSOne, 2016 Mar 21; 11(3)	Original Article

小計12件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

計95件

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

## (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Ota S, Orii M, Akasaka T.	内科学第四講座	虚血性心筋症の検査・診断 CT,MRI.7. 虚血性心筋症の臨床	日本臨牀74(増刊6):260- 263,2016	Review
2	Akasaka T.	内科学第四講座	心臓CTの進歩-ここまで診断できる. 日本循環器学会第20回プレセミナー 循環器画像診断の進歩	THERAPEUTIC RESEARCH 37 (9):827-828,2016	Review
3	Akasaka T.	内科学第四講座	Report:CTだけで冠血行再建の判断 が可能に	日経メディカル10:20-22,2016	Review
4	Nishiguchi T	内科学第四講座	医学振興会記念助成事業海外兼研 究助成金実績報告書-Mount Sinai 病院での海外研修-	和歌山医学67(3):112-113,2016	Review
5	Terada K	内科学第四講座	医学振興会記念助成事業海外兼研 究助成金実績報告書-Mount Sinai 病院を訪問して-	和歌山医学67(3):114,2016	Review
6	Akasaka T.	内科学第四講座	ドブラ法における匠の技	心エコー17(11):945,2016	Review
7	Hirata K, Takemoto K.	内科学第四講座	冠動脈疾患診断におけるドブラ法活 用指南. 応用編ドブラ法を駆使した 臨床診断	心エコー17(11):1016- 1024,2016	Review
8	Kubo T, Okamura A, Son J	内科学第四講座	新しいステントをどう使い分けるか	第一三共株式会社広報2016年8 月, 2016	Review
9	Ino Y	内科学第四講座	Stentless strategyにはこのimaging deviceが必須である. 特集 Contemporary Stentless Strategy 2016	Coronary intervention 12(2):84- 91,2016	Review
10	Taruya A, Kubo T, Akasaka T	内科学第四講座	III冠動脈疾患に迫る. 不安定ブ ラークに迫る. 「Integrated Cardiac Imaging画像で病態に迫る, 治療効果 を判定する」	Medical View, 東京, pp.110- 115,2016	Review
11	Orii M	内科学第四講座	V心筋炎に迫る. 1.急性心筋炎. 「Integrated Cardiac Imaging 画像で 病態に迫る, 治療効果を判定する」	Medical View, 東京, pp.176- 183,2016	Review
12	Yamano T	内科学第四講座	2. 急性肺血栓塞栓症. VII肺高血圧 症に迫る. 「Integrated Cardiac Imaging画像で病態に迫る,治療効果 を判定する」	Medical View, 東京, pp.216- 221,2016	Review
13	Kubo T	内科学第四講座	第3章 BRSをイメージングでどのよ うに評価するか.8.OCT/OFDI	BRS(生体吸気性スキヤフオールド) User's Guide-The 1st Edition-編集:BRS Club Japan.メ ディシナトル, 東京pp.50- 52,2016	Review
14	Hirata K, Takemoto K.	内科学第四講座	高齢者に多いS字状中隔のメカニズ ムとその臨床的問題	心エコー18(2):160-165,2017	Review
15	Kubo T	内科学第四講座	冠動脈インターベンション治療後 における抗血小板療法の効果と役割	西京医師会報261:30-31,2017	Review
16	Akasaka T.	内科学第四講座	高血圧と心臓病~なぜ降圧薬を飲む のでしよう~. Report: 日本循環器学 会プレセミナー-Geriatric Medicine	老年医学55(3):337-340,2017	Review
17	Akasaka T.	内科学第四講座	糖尿病と虚血性心疾患.Cardio- Renal Diabetes	Cardio Renal Diabetes第6巻第3 号, 2017	Review
18	Kubo T	内科学第四講座	臨床研究とは如何、そして発表と論 文化. 9)どの雑誌に投稿するか	Coronary Intervention 13:41- 45,2017	Review
19	Kameyama T, Kubo T, Akasaka T	内科学第四講座	近赤外線スペクトロスコピー	循環器内科. 2017;81:5796- 5799	Review
20	Kameyama T, Kubo T, Akasaka T	内科学第四講座	第3章 診断 冠動脈内イメージング の進歩:IVUS,OCT,NIRSを使用した PCIの実例	「狭心症 診断と治療のABC 120」最新医学 別冊, 最新医学 者, 大阪, pp.110-118,2017(243 頁)	Review
21	Akasaka T, Kubo T	内科学第四講座	45症例で極める冠動脈疾患の画像 診断	2017.pp.1-182,文光堂,東 京,2017	Review
22	Nakashima Y, Mima T, Yashiro M, et al.	腎臓内科学講座	Expression and localization of fibroblast growth factor (FGF)23 and Klotho in the spleen: its physiological and functional implications.	Growth Factors. 34(5-6):196- 202, 2016	Original Article
23	Koh J	神経内科学講座	Quantitative reference value of dopamine transporter single-photon emission computed tomography in healthy Japanese elderlies	NEUROLOGY AND CLINICAL NEUROSCIENCE 4 (6), Nov 2016: 215-219.	Original Article

小計23件

24	Sakamoto Y, Takahashi S, Yamamoto M, et al	神経精神科学講座	Efficacy of a Rework Program for Sick Leave due to Depressive Disorders.	Journal of Depression and Anxiety 6:265, 2017	Case report
25	Satogami K, Takahashi S, Kose A, et al	神経精神科学講座	Schizophrenia-like symptoms in a patient with Leigh syndrome.	Asian Journal of Psychiatry 25: 249-250, 2017	Original Article
26	Satogami K, Takahashi S, Yamada S, et al	神経精神科学講座	Omega-3 fatty acids related to cognitive impairment in patients with schizophrenia.	Schizophrenia Research: Cognition 9: 8-12, 2017	Original Article
27	Yamada H	整形外科講座	XLIF®の合併症と対策	整形外科最小侵襲手術ジャーナル 2016 79: 67-75	Original Article
28	Minamide A	整形外科講座	腰部脊柱管狭窄症に対する内視鏡下除圧術の長期臨床成績.	整形外科 2016 67: 1109-1112	Original Article
29	Nakagawa Y, Yoshida M, Yamada H, et al	整形外科講座	脊椎内視鏡手術における合併症と対策.	Journal of spine research 2016 7: 1377-1381	Original Article
30	Shimoe T, Hashimoto T, Kanno S, et al.	整形外科講座	前腕の開放骨折および軟部組織損傷を伴う肘頭部皮膚軟部組織欠損に対して逆行性外側上腕皮弁による治療を行った1例.	中部整災誌 2016 59:921-922	Case report
31	Taniguchi W, Miyamoto E, Taniguchi T, et al.	整形外科講座	THAによって破局的思考は改善されるのか?	Hip Joint 2016 42: 704-707	Original Article
32	Murakami K, Yamada H, Tsutsui S, et al.	整形外科講座	前方・後方同時矯正手術を実施した先天性後弯症の1例.	臨床整形外科 2016 51	Case report
33	Murakami K, Yamada H, Hashimoto T, et al.	整形外科講座	高度骨破壊を呈したcompromised hostの腰椎化膿性脊椎炎に対して最小侵襲脊椎安定術(MIS)とテリパラドの投与が有効であった1例.	臨床整形外科 2016 51	Case report
34	Masuno A, Hotomi M, Togawa A et al.	耳鼻咽喉科	Amount of Haemophilus influenzae Genomic DNA in Middle Ear Fluids of Pediatric Acute Otitis Media.	J Bacteriol Parasitol, 7:1. 2016.	Original Article
35	Zafar MA, Kono M, Wang Y et al.	耳鼻咽喉科	Infant Mouse Model for the Study of Shedding and Transmission during Streptococcus pneumoniae Mono-infection.	Infect Immun. 84:2714-22, 2016.	Original Article
36	Furukawa F, Kanazawa N	皮膚科学講座	Circumstances that led to the definition of papuloerythroderma (Ofuji) as an individual entity.	J Clin Exp Dermatol Res, 7: 5, 2016	Review
37	Yoshimasu T, Furukawa F	皮膚科学講座	Modified immunotherapy for alopecia areata.	Autoimmun Rev 15: 664-667, 2016	Review
38	Nishiguchi M, Furukawa F, Kanazawa N	皮膚科学講座	Leprosy versus sarcoidosis: different diagnosis and review of misdiagnosed cases.	J Dermatol Clin Res 4: 1087, 2016	Original Article
39	Yamamoto Y	皮膚科学講座	分子標的薬による皮膚障害の診療の手引き.	臨床皮膚科 70: 137-140, 2016	Others
40	Kanazawa N, Furukawa F	皮膚科学講座	差分解説 中條-西村症候群 (Nakajo-Nishimura syndrome).	日本医事新報 4813: 52, 2016	Others
41	Kaminaka C, Yamamoto Y	皮膚科学講座 他	差分解説 萎縮性ざ瘡癬痕に対するフラクショナルラジオ治療法.	日本医事新報 4810: 52, 2016	Others
42	Ikeda T	皮膚科学講座	全身性エリテマトーデスの診断から治療まで.	MB Derma 250: 16-26, 2016	Others
43	Fujimoto M, Yamamoto Y, Matsuzaki I	人体病理学講座	Tumor budding is an independent risk factor for lymph node metastasis in cutaneous squamous cell carcinoma: a single center retrospective study	J Cutan Pathol. 2016 Mai 26	Original Article

小計20件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

計43件

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 倫理審査委員会の審査及び運営、学長の責務、研究責任者の責務、研究者等の責務、 重篤な有害事象発生時の対応	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 和歌山県立医科大学利益相反マネジメント委員会の任務、審議事項、組織、議事、 委員の任期など	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年6回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年9回
・ 研修の主な内容 1. 研究倫理及び利益相反に関する講習 学内講師により、過去の不正事案を元に臨床倫理、利益相反に関するセミナーを行った。 2016年9月13日開催、「研究倫理・利益相反について」 2. 倫理指針、臨床研究に関する講習 臨床研究分野における著名な外部講師を招聘し、臨床研究を実施する上で遵守すべき指針	

等について紹介するとともに、臨床研究実施時の注意点等についてセミナーを行った。

2016年5月31日開催、「クリニカルサイエンス：原理と実践」

2016年10月4日開催、「臨床試験のモニタリング・監査：がん領域の恒常的多施設共同臨床試験グループでの取り組み事例」

### 3. 臨床研究における試料情報等の保管に関する講習

本学において実施する臨床研究の試料情報等の適切な保管に関して、管理上の注意点や実際の管理方法に関するセミナーを開催した。

2016年6月8日開催「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」

2016年6月8日開催「研究デザインについて」

2016年6月22日開催「医学データにおける統計的経験則と統計ソフトウェアの活用方法：JMP Proを中心として」

2016年6月22日開催「データマネジメント」

2016年7月11日開催「モニタリング」

2016年7月11日開催「研究データ管理者の実務について」

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

【糖尿病・内分泌・代謝内科】

日本糖尿病学会糖尿病研修指導医4名、同学会糖尿病専門医9名、日本内分泌学会内分泌代謝科研修指導医2名、同学会内分泌代謝科専門医6名の指導の下、各々の学会の専門医研修カリキュラムに従い研修を実施している。

【消化器内科】

以下の最先端の内視鏡技術、超音波下治療技術を早期に習得できるよう、それぞれの研修カリキュラムを組んでいる。

- ・ 超音波下肝腫瘍ラジオ波焼灼術
- ・ 内視鏡的消化管癌粘膜下層剥離術
- ・ 超音波内視鏡下瘻孔形成術
- ・ 超音波内視鏡下穿刺生検
- ・ バルーン小腸内視鏡下検査および治療

【呼吸器内科・腫瘍内科】

和歌山県立医科大学内科専門医研修プログラムによる専門研修を行う。まずは内科専門医取得を目標とし、呼吸器学会、アレルギー学会、呼吸器内視鏡学会、臨床腫瘍学会などの指導医（医局スタッフ）の指導のもとで、専門的な診断・治療の知識、手技の経験と習得が可能である。

【循環器内科】

循環器に関する基礎を学び、診断、治療に対する基本的な診療技術を習得する。

- ・ 患者との交わりを通じて疾患・病態への理解を深める。
- ・ 救急当番・当直に参加し、循環器救急疾患を経験する。
- ・ 心電図、心エコー、CT、MRI、血管造影の読影を習得する。
- ・ 心臓カテーテル検査、電気生理学的検査に介助医として参加する。

【腎臓内科（人工透析）】

腎臓病のすべてのステージに対応できるよう、検尿異常の段階から慢性腎臓病、腎不全管理、急性血液浄化療法、腎移植管理に至るまで管理できるよう幅広い研修を行なっている。したがって、研修では腎臓病診断の基礎となる検尿異常のよみかたから診断、腎生検手技、腎不全管理から透析導入に際して必要となるシャント作成などの外科的手技、さらにはシャント不全に対応する経皮的血管形成術(PTA)を行なう放射線手技などその範囲は広きにわたる。また、急性血液浄化療法では急性腎障害に対応した血液回路作成、導入を行なう。

【血液内科】

1 日本血液学会認定指導医が二人常勤している。同種造血幹細胞移植を年間20症例以上行っている。当科で研修することにより日本血液学会認定専門医を取得できる。

2 日本輸血細胞治療学会認定医が二人常勤している。輸血に関する研修を行い日本輸血細胞治療学会認定医受験資格がえられる。

【神経内科】

病院での勤務を中心に臨床神経学を学び、最短7年目で神経内科専門医を取得できるプログラムや、大学院での研究や、希望に応じて海外留学もできるプログラムを用意している。いずれの場合でも、原則3年目は大学病院でしっかり神経学の基礎を学ぶため、大学病院で医員という立場での研修をスタートする。大学では病棟医として勤務する。

診療体制としては、病棟医長をはじめとした医局スタッフが研修医の直接指導にあたり、彼らをリーダーとして3-4チームのグループ診療を行う。病棟では教授回診、准教授回診を毎週行なっている。また教授外来の新患外来に付いて外来診療を学ぶこともできる。

定期的に神経生理学的検査（筋電図・伝導速度検査・大脳誘発電位検査・脳波など）や頸動脈超音波検査・経頭蓋超音波検査を実施しており、担当教員から直接指導を受け、検査の仕方、所見の読み方を学習する。

#### 【リウマチ・膠原病科】

膠原病において、一般の検査室では検出できない自己抗体の検出を行い、その臨床的意義を研修させている。

#### 【小児科】

小児科学全般にわたる知識、態度、判断力及び診療技術の習得を目的とする。研修は日本小児科学会の小児科専門医を目指す医師が研修すべき教育目標として作成された「小児科医の到達目標」に則しており、小児科専門医の取得に必要な関連領域（小児外科、脳神経外科、整形外科、耳鼻科、皮膚科、眼科、産婦人科、泌尿器科、歯科口腔外科、麻酔科、リハビリ科）知識の習得も満たすことができ、3年間の研修を終了後は日本小児科学会専門医の受験資格を取得できる。

当研修施設は、大学病院であるとともに和歌山県の子ども病院の機能も備えており、心臓外科、腹部外科、脳神経外科等の小児外科疾患の手術症例も豊富である。また、一次から三次の小児救急患者も随時受け入れており、小児のプライマリーケアから高度先端医療までの全てを満たした研修を行うことが可能である。

#### 【神経精神科】

医局医師は11名（精神保健指定医7名、精神科専門医6名、後期研修医1名）で、年間入院患者150名、外来2000名に対応している。精神病床指定（閉鎖）40床と、一般病棟1床を有す。日本精神神経学会専門医制度研修施設、日本老年精神医学会認定施設、日本総合病院精神医学会特定研修施設の認定を受けている。県における基幹病院として身体合併症を有する患者の受け入れの他、以下の各種の専門的医療を運営している：電気けいれん療法、クロザリル療法、磁気刺激療法、認知行動療法、うつ病患者職場復帰支援（医療リワーク）、緩和医療参加、リエゾン外来、てんかん専門外来、認知症疾患医療センターなど。

#### 【心臓血管外科】、【呼吸器外科・乳腺外科】

心臓血管外科、呼吸器・乳腺外科における周術期管理、検査、画像診断に関する指導を行う。

心臓血管外科では、大腿動脈の剥離、冠動脈バイパスのグラフト採取、胸骨正中切開、末梢血管バイパスなどの手技を習得させる。

呼吸器・乳腺外科では、肺部分切除、乳房部分切除、乳房切除などの手技を習得させる。

#### 【消化器・内分泌・小児外科】

当教室は、内視鏡外科技術認定医8名（胃：5名、大腸：3名）、肝胆膵外科高度技能専門医6名を有し、食道癌、膵臓癌、直腸癌などの高難度の手術が多いのが特徴である。したがって、後期研修医に対しては、上部消化管、下部消化管、肝胆膵疾患の各グループに4か月ずつローテーションを行い、各グループの指導医のもとで、高度専門医療を習得するよう指導している。具体的には、週2回の術前カンファレンスでは、最新の診断技術を用いた術前診断および臨床研究について厳密に討論し指導し、術後カンファレンスではその日の行った手術のプレゼンテーションを行わせ、手術の理解を促進している。また、週1回の総廻診では、各患者の病状説明を行わせ、今後の最適な治療法の指導を受け、術後管理の習得に努めさせている。また、週1回の早朝セミナーでは、各疾患の最新の治療法、および進行中の臨床研究について医局員から講義を受け、将来、自分で臨床研究を構築できるよう指導を行っている。また、指導医によるドライラボでの模擬実習、および実験動物を使った手術手技研修を行い、常に手術手技を向上するように指導している。

#### 【脳神経外科】

脳腫瘍、脳血管障害、機能外科、脊髄・脊椎外科などのサブスペシャリティ領域の研修が可能である。各領域に2名程度の研修統括者を配置し、研修医の指導を行っている。それぞれの領域において、他施設から紹介された患者に対して高度医療を1週間あたり2～3症例の頻度で行われており研修医は短期間でも効率的に密度の高い研修が行える。

#### 【整形外科】

脊椎外科、関節外科、手外科、骨軟部腫瘍外科、関節リウマチ外科を定期的にローテートし、各高度先進医療について研修を行う。

#### 【形成外科】

形成外科は、外傷、腫瘍、先天異常による欠損や変形の病態を把握し、診断法を習熟した後、再建法のプランニングが立案できることを目標とする。

また、特定の担当臓器をもたない形成外科は、チーム医療の重要性を示す。

#### 【泌尿器科】

泌尿器科においては、先進的な各種泌尿器科悪性腫瘍に対する腹腔鏡手術が多いため、泌尿器科診療に必要な解剖や術式の理解が得やすいのみならず、腹腔鏡手術の基本的な手技の習得も可能である。また近年ではロボット支援前立腺全摘術も年間130例ほど施行しており最先端であるロボット支援手術について学ぶことができる。

症例は悪性腫瘍が中心であるが、排尿障害、尿路結石、女性泌尿器、腎移植なども扱っており、それぞれの領域を専門とする指導医の下で研修を受けることができる。泌尿器科専門医のみならず、がん治療認定医、泌尿器腹腔鏡技術認定医、腎移植認定医などの取得も可能である。

#### 【産科・婦人科】

産科婦人科においては、参加婦人科専門医12名の指導の下、すべての領域における研修を行っている。サブスペシャリティに関しても産科では周産期母体胎児専門医4名、婦人科では婦人科腫瘍専門医3名の指導の下、ハイレベルな研修を行っている。県下唯一の総合周産期母子医療センターとして、ハイリスク妊娠や分娩の豊富な症例数を有し、また婦人科癌手術症例も多数ありハイレベルな研修が可能である。

#### 【眼科】

1年目は、視覚に問題のある患者との接遇を指導する。知識や検査技術の習得と、手術では介者としての参画を中心とし、原則白内障の執刀は2年目以降とする。さらに、この年度では手術適応の決定は指導医にゆだねる。眼科研修委員長と研修施設長によって任命された指導医がマンツーマンで指導し、担当症例の診察、治療に可能な限り同席させる。

2年目から3年目では、1年目の研修内容を継続しつつ、さらに検査に習熟し、手術の適応決定ができるように指導する。手術適応の決定と患者や関係者への説明と同意の取得まで担当させる。これらが完了した段階で、指導医が参画して、最終決定に至らせる。ついで、症例の頻度にもよるが、指導の下に手術を開始させるが、術中合併症の対処は指導医にゆだねる。

4年目以降では、3年目の研修内容を継続しつつ、上級の手術への移行をめざすが、術中合併症の対処は指導医にゆだねる。また、日々の指導医とのコミュニケーションの中で、専門医取得後の将来の専門性の方向付けのイニシエーションなども随時、織り交ぜてゆく。眼科研修医の研究成果の評価は、それぞれのプログラムの責任者となっている眼科専門医によって個別に行われた上で、眼科研修委員長と研修施設長によって実施される。評価は最終年度の日本眼科学会専門医認定試験の受験申し込みの前の4ヶ月をかけておこなう。研修が完遂されたと判断された場合、日本眼科学会専門医認定試験の受験を許可する。

#### 【耳鼻咽喉科】

基幹研修施設である当院と国保日高総合病院、紀南病院の2関連研修施設において、それぞれの

特徴を生かした耳鼻咽喉科専門研修を行い、日耳鼻研修到達目標や症例経験基準に掲げられた疾患や手術を経験する。プログラムに定められた研修の評価は施設ごとに指導管理責任者（関連研修施設）、指導医、および専攻医が行い、プログラム責任者が最終評価を行う。4年間の研修修了時には、すべての領域の研修到達目標を達成する。さらに、4年間の研修中、認定されている学会において学会発表を少なくとも3回以上行う。また、筆頭著者として学術雑誌に1編以上の論文執筆・公表を行う。研修の評価や経験症例は日耳鼻が定めた方法でオンライン登録する。

本プログラムでは、専門医および学位取得コースとして、大学院博士過程進学が可能である。大学院在籍期間は4年間で、大学院進学時期により年次プログラムが変動する。大学院進学時期から専攻医が興味を持つ領域の研究テーマを臨床実習の学術的なバックグラウンドを肉付けするようにして研究をスタートする。

### 【皮膚科】

皮膚疾患を診断するには、患者さんの話に耳を傾け、皮疹をよく観察することから始める。後期研修では、患者さんの背景と皮疹から鑑別診断を列挙する訓練を行う。視診の補助手段としてダーモスコピーや超音波検査の手ほどきを受けることも可能である。

外来では、専門医の診察を見学し、問診のポイントや皮疹を見るコツを習得。早い人は後期研修がスタートして数か月で外来診察を開始。自分の目で観察し、わからないことは専門医に訊ねて知識を広げる。皮膚生検や簡単な外来手術は指導医のもと、積極的に行う。代表的な皮膚疾患については、初心者向けの病理組織勉強会が定期的に行われる。

当教室が重点を置いている分野の1つが、免疫アレルギー。免疫アレルギーが病態に深くかかわる皮膚疾患、たとえば、膠原病や自己免疫性水疱症、薬疹について幅広い知識を修得することが可能。皮内テスト、プリックテスト、貼布試験など、アレルギー皮膚疾患の基本検査は、ルーチンに施行。MED、MPD、光貼布試験などの光線検査にも習熟。

治療については、全身療法、外用療法を問わず、適応、使用法副作用、禁忌の理解。全身療法では、抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬、抗腫瘍薬、免疫抑制薬、副腎皮質ステロイド、消炎鎮痛薬、抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬のほか、レチノイドやDDS、血漿交換にも熟知。外用療法では、副腎皮質ステロイド外用剤、非ステロイド抗炎症剤、保湿剤、免疫調整外用剤、ビタミンD3外用剤、抗真菌剤、抗潰瘍剤が中心。また、皮膚外科、レーザー療法については体験する機会が多い。光線療法も随時施行。

当教室は、アトピー性皮膚炎やケミカルピーリング、血管炎、ざ瘡、蕁麻疹、疥癬、血管腫などのガイドライン作成にも積極的に関与してきた経緯があり、系統的な治療法が、比較的短期間で習得できる。

#### 後期研修

目標：皮膚科専門医を目指す。日本皮膚科学科入会、5年間後に資格を得る。その間、学会発表、論文、講習会の所定の単位を得る。資格を満たした後は、専門医試験を受ける。更に、皮膚悪性腫瘍と美容皮膚・レーザー指導専門医コースがある。

学べき事：皮膚科全般。

専門医を取得後は、アレルギー、リウマチ膠原病、皮膚外科、皮膚腫瘍学、皮膚病理学、美容皮膚科などの専門性を徐々に習得するようにする。

コース：1年目 和医大皮膚科あるいは関連病院で上記の皮膚科臨床基礎を学ぶ。

2年目 和医大皮膚科あるいは関連病院で上記の皮膚科臨床基礎を学ぶ。

3年目 各人の希望を聞き教室の状況を判断から、おおむね、

1) 和医大皮膚科で臨床を続ける、

2) 大学院（勤務しながら研究生活を送る社会人大大学院もいます）、

3) 関連病院で研鑽、など。

その後は、外国留学、国内留学などのコースがある。ちなみに、過去、米国コロラド大学、米国ケースウエスタンリザーブ大学、京大膠原病内科、兵庫医大リウマチ・膠原病科に留学している（ほぼ2年間）。

### 【歯科口腔外科】

#### 麻酔科研修 3 ヶ月

- ・術前管理（術前診察と全身状態評価）
- ・術中管理（全身麻酔管理）
- ・術後管理（麻酔後の全身状態の把握）

#### 救命救急研修 2 ヶ月

- ・救急診療、処置、呼吸管理、薬剤の使用、モニター装着及び検査等

残り7ヶ月は歯科口腔外科での後期研修。麻酔科研修、救命救急研修が終了すれば当直が可能となる。

#### 【放射線科】

放射線科の大きな3つの柱は画像診断、IVR治療、放射線治療で、これらの3つは密接に関連している。画像診断では、単純X線写真、CT、MRI、核医学検査、冠動脈CT、マンモグラフィ、CTコロノグラフィなどの読影を学ぶことができる。IVR治療では、肝細胞癌に対する肝動脈塞栓術、胃静脈瘤に対するバルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術、大動脈瘤に対するステントグラフト留置術などを体験できる。放射線治療では、リニアックによる3次元照射、トモセラピーによる強度変調放射線治療（IMRT）、イリジウム線源を用いた小線源治療（組織内・腔内照射）に触れることができる。

#### 【リハビリテーション科】

本院ではドクターヘリをはじめ充実した救命救急医療体制ができています。疾患・障害の幅が広く、様々な疾患に対して、急性期からICUでも積極的にリハを開始している。さらに、整形外科、消化器外科等の外科とも連携し、術前からリハを導入している。特に運動療法はPT、OT、STに共通した効果的な治療と位置付け、高強度長時間負荷を施行している。重症重複障害患者の場合はリハ医が主治医となり、リハ科入院で責任をもって診る。他科のリハ施行患者は初診で全身をリハ医が診察し、毎朝回診する。リハを責任持って施行する姿勢が医師としての臨床力を育て上げる。疾患別リハビリテーション料の施設基準はいずれも施設基準Iであり、全分野の疾患に対するリハを経験できる。

本院分院や市街中心地に展開している本院附属診療所では地域リハを導入し、回復期、生活期など退院後のリハも積極的に取り込んでいる。リハ医によるPT、OT、STとのチームワークは抜群で、リハの内容に関しても日本の先陣を走っている。ロボットリハや再生医療のリハも手がけ、癌リハは県の中核を担い、障がい者スポーツでは文科省の拠点に指定されている。嚥下や高次脳機能のリハも中核病院としての役割を担っている。これらの総合的リハ医療を体系的に学習する研修システムを構築している。

また研究面では、近年だけでも当教室主宰で国際シンポジウムを4回、海外からの講師招聘は20名を超えている。障がい者スポーツ研究分野のトップランナーである英国ラフバラ大学や運動・環境生理学のメッカと言えるテキサス大学との共同研究を多く手がけ、高度先進医療、先進的リハへの取り組みも行っている。これらの活動にも参加することができる。

#### 【救急科】

高度救命救急センターにおいて、和歌山県内の救急患者を救急車による陸路搬送で年間5,500人、ドクターヘリによる航空搬送で年間約400人を受け入れており、緊急手術や血管内治療など高度な救命処置が必要となる最重症の救急症例を多数経験することができる研修施設である。

高度救命救急センターは、施設内に救急車搬送患者の対応と共に、時間外に来院したウォークイン救急症例にも対応するER外来を設備しており、数多くの救急患者の中から高度医療が必要となる症例をトリアージして専門医診療科に引き継ぐことのできる診療技術の習得が可能である。

研修医は、ローテーション期間内にICU、HCU、救急入院一般病棟、ERの各部門を経験し、院内各専門診療科に配属となった後期研修医と共に、全診療科のバックアップ体制の下で、救急集中治療を習得する。当院附属の救命救急センターは、専従医師で全国266の救命救急センター中2番目に多い37名を要しており、救命救急センターの評価結果でも常に上位に位置している。

### 【麻酔科】

後期研修医に対しては、4年間の麻酔科研修プログラムを作成し、それに準じて麻酔研修を行っている。研修プログラムは、臨床薬理学・臨床生理学を理解し、術前評価・術中管理・術後管理ができるような内容となっている。低リスクの症例から高リスクの症例まで安全で質の高い周術期管理ができるようにプログラムを構成している。

麻酔科専門医取得後には、さらに高度な研修を行うための研修プログラムを設置している。関連領域の認定医および専門医を取得できるように、心臓麻酔コース、区域麻酔コース、小児麻酔コース、ペインクリニックコース、緩和医療コースを設置している。

従って、麻酔専門医からサブスペシャリティ取得まで可能な研修システムを備えている。

### 【病理診断科】

専門医による直接指導

コンセンサスカンファレンス（毎日）

臨床とのカンファレンス（毎週）

研究カンファレンス

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

## 2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	70.4人
-------------	-------

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

## 3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
赤水 尚史	糖尿病・内分泌・代謝 内科	教授	36年	
北野 雅之	消化器内科	教授	27年	
加藤 順	消化器内科	准教授	24年	
井口 幹崇	消化器内科	講師	24年	
前北 隆雄	消化器内科	講師	22年	
井田 良幸	消化器内科	講師	14年	
吉田 岳市	消化器内科	講師	14年	
中西 正典	呼吸器内科・腫瘍内科	准教授	24年	
赤阪 隆史	循環器内科	教授	35年	
大矢 昌樹	腎臓内科	講師	19年	
園木 孝志	血液内科	教授	27年	日本血液学会認定指導医
伊東 秀文	神経内科	教授	33年	
藤井 隆夫	リウマチ・膠原病科	教授	28年	
鈴木 啓之	小児科	教授	35年	
武内 崇	小児科	講師	29年	
南 弘一	小児科	講師	27年	
神波 信次	小児科	講師	26年	
熊谷 健	小児科	講師	21年	
田村 彰	小児科	講師	21年	
島 友子	小児科	講師	19年	
鵜飼 聡	神経精神科	教授	34年	
西村好晴	心臓血管外科	教授	30年	

尾浦正二	乳腺外科	准教授	33年	
吉増達也	呼吸器外科	准教授	28年	
山上裕機	消化器・内分泌・小児外科	教授	36年	
中尾 直之	脳神経外科	教授	31年	
小倉 光博	脳神経外科	准教授	29年	
増尾 修	脳神経外科	講師	24年	
西林 宏起	脳神経外科	講師	23年	
深井 順也	脳神経外科	講師	20年	
北山 真理	脳神経外科	講師	18年	
八子 理恵	脳神経外科	講師	16年	
井澤 大輔	脳神経外科	助教	11年	
川口 匠	脳神経外科	助教	11年	
尾崎 充宣	脳神経外科	助教	11年	
山田 宏	整形外科	教授	29年	脊椎外科
中川 幸洋	整形外科	講師	25年	脊椎外科
谷口 隆哉	整形外科	講師	16年	関節外科
下江 隆司	整形外科	助教	12年	手外科
神埜 聖治	整形外科	助教	12年	骨軟部腫瘍
福井 大輔	整形外科	講師	13年	関節リウマチ
朝村 真一	形成外科	教授	23年	
原 勲	泌尿器科	教授	32年	
井篁 一彦	産科・婦人科	教授	30年	
雑賀 司珠也	眼科	教授	28年	
保富 宗城	耳鼻咽喉科	教授	17年	
神人 正寿	皮膚科	教授	18年	
山本 有紀	皮膚科	准教授	27年	
金澤 伸雄	皮膚科	准教授	23年	
池田 高治	皮膚科	講師	18年	
上中 智香子	皮膚科	准教授（寄附講座）	18年	
藤田 茂之	歯科口腔外科	教授	36年	
園村 哲郎	放射線科	教授	31年	
武内 泰造	放射線科	准教授	24年	
中井 資貴	放射線科	准教授	22年	
白井 信太郎	腫瘍センター	講師	33年	
生駒 顕	放射線科	助教	12年	
田中 文浩	放射線科	助教	10年	
野田 泰孝	放射線科	助教	10年	
田島 文博	リハビリテーション科	教授	34年	
加藤 正哉	救急科	教授	35年	
上田 健太郎	救急科	講師	22年	ER医長
宮本 恭兵	救急科	助教	11年	ICU医長
藤田 浩二	救急科	講師	24年	HCU医長
川股 知之	麻酔科	教授	27年	
村田 晋一	病理診断科	教授	31年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている

診療科については、必ず記載すること。

- (注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

#### 4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

##### ① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

###### 【看護キャリア開発センター】（詳細については別紙参照）

- ・ 研修の主な内容：新人看護師に対しては、新人看護職員研修制度に則った研修を実施。  
2年目以降の看護師に対しては、継続教育研修として2年目必須研修及びクリニカルラダーの段階に応じた研修、役割に関する研修、マネジメント、トピックスの項目で研修を実施。  
看護補助員に関しても研修を実施した。
- ・ 研修の期間・実施回数：平成28年4月1日～平成29年3月31日・のべ89回
- ・ 研修の参加人数：看護師を対象とした研修：56研修を実施し、延べ2760人が参加  
看護補助員を対象とした研修：4研修を実施し、延べ216人が参加

###### 【中央検査部】

- ・ 研修の主な内容：新しい臨床検査法や検査機器の有用性、疾患と検査について  
「海綿状血管腫に起因するてんかん発作が手術により改善した一症例」  
「sd-LDLの臨床意義について」  
「間質性肺炎の診断補助に用いるKL-6」  
「血液ガス分析について」、「疥癬について」  
「液状化検体細胞診（LBC）について」 など
- ・ 研修の期間・実施回数：H28年度中・14回
- ・ 研修の参加人数：延べ342人（平均24.4人/回）

###### 【中央放射線部】

1. 研修の主な内容 密封小線源治療装置のトラブル発生時の対応  
・ 研修の期間・実施回数：H28年4月25日 1回実施  
・ 研修の参加人数：8名
2. 研修の主な内容 GE・MRI操作説明書（追加分）クエンチについて  
・ 研修の期間・実施回数：H28年5月31日 1回実施  
・ 研修の参加人数：22名
3. 研修の主な内容 東芝及びGE最新CTの現状説明  
・ 研修の期間・実施回数：H28年6月15日 1回実施  
・ 研修の参加人数：12名
4. 研修の主な内容 フィリップス及びシーメンス最新CTの現状説明  
・ 研修の期間・実施回数：H28年6月8日 1回実施  
・ 研修の参加人数：10名
5. 研修の主な内容 RI内用療法の新薬 塩化ラジウム（ $^{223}\text{Ra}$ ）について  
・ 研修の期間・実施回数：H28年7月19日 1回実施  
・ 研修の参加人数：10名
6. 研修の主な内容 脳梗塞の機序とIVRの適応について  
・ 研修の期間・実施回数：H28年7月22日 1回実施  
・ 研修の参加人数：12名
7. 研修の主な内容 MRI対応パルスオキシメータ 7500F0の使用説明・安全取扱  
・ 研修の期間・実施回数：H28年7月12日 1回実施  
・ 研修の参加人数：10名

- 8・研修の主な内容 適正な造影検査の実施と安全管理の実践
  - ・研修の期間・実施回数：H28年8月30日 1回実施
  - ・研修の参加人数：11名
- 9・研修の主な内容 冠動脈CTの基礎
  - ・研修の期間・実施回数：H28年9月28日 1回実施
  - ・研修の参加人数：7名
- 10・研修の主な内容 オクトレオスキャンRI検査の説明
  - ・研修の期間・実施回数：H28年9月27日 1回実施
  - ・研修の参加人数：12名
- 11・研修の主な内容 BRTOについて
  - ・研修の期間・実施回数：H28年10月7日 1回実施
  - ・研修の参加人数：4名
- 12・研修の主な内容 診療用高エネルギー発生装置の使用における幾何学的座標系のQAQC
  - ・研修の期間・実施回数：H28年11月1日 1回実施
  - ・研修の参加人数：8名
- 13・研修の主な内容 TACEについて
  - ・研修の期間・実施回数：H28年11月14日 1回実施
  - ・研修の参加人数：6名
- 14・研修の主な内容 ボーンスキャンインデックスによる骨転移の評価と管理について
  - ・研修の期間・実施回数：H29年1月25日 1回実施
  - ・研修の参加人数：3名
- 15・研修の主な内容 X線CTのヘリカルピッチとビームビームピッチ及びMTFについて
  - ・研修の期間・実施回数：H29年1月26日 1回実施
  - ・研修の参加人数：7名
- 16・研修の主な内容 MRI用造影剤プロハンスについて
  - ・研修の期間・実施回数：H29年2月15日 1回実施
  - ・研修の参加人数：6名
- 17・研修の主な内容 病室撮影及び救急外来においての新システム  
(コニカAeroDRの操作について)
  - ・研修の期間・実施回数：H29年2月27・28日 3月3・6日 3月23・28日、6回実施
  - ・研修の参加人数：40名

#### 【リハビリテーション部】

- 1・研修の主な内容 第5回和歌山リハビリテーション医学研究会学術講演会
  - ・研修の期間・実施回数 平成28年4月2日 1回
  - ・研修の参加人数 66名
- 2・研修の主な内容 リハビリテーション科特別講演会
  - ・研修の期間・実施回数 平成28年5月22日 1回
  - ・研修の参加人数 31名
- 3・研修の主な内容 スポーツ・温泉医学研究所 講演会
  - ・研修の期間・実施回数 平成28年6月7日、7月1日 2回
  - ・研修の参加人数 37名、29名
- 4・研修の主な内容 第1回リハビリテーション医学講座研究検討会
  - ・研修の期間・実施回数 平成28年6月24日 1回
  - ・研修の参加人数 41名
- 5・研修の主な内容 和歌山臨床RAフォーラム
  - ・研修の期間・実施回数 平成29年1月14日1回
  - ・研修の参加人数 5名

**【病態栄養治療部】**

- ・研修の主な内容 NST勉強会：栄養管理の重要性を認識し、適切な栄養処方を行うために専門知識と技術の習得を目的とする
- ・研修の期間・実施回数：平成28年4月～平成29年3月、10回
- ・研修の参加人数：412名

**【臨床工学センター】**

- ・研修の主な内容 看護師に対する人工呼吸器の取り扱い方法
- ・研修の期間・実施回数 9月～2月、6回
- ・研修の参加人数 91名

**② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）****【薬剤部】**

- ・研修の主な内容：採用医薬品について
- ・研修の期間・実施回数：H28.4～H29.3 40回
- ・研修の参加人数：延べ954名

**【中央検査部】**

- ・研修の主な内容「採血管の違いが生化学検査に及ぼす影響」  
「診療報酬改定と臨床検査技師の未来」  
「PERSONAL MANAGEMENT」  
「ISO15189に関するセミナー：文書体系構築セミナー、SOP・特性要因図作成セミナー、内部監査員養成セミナー」
- ・研修の期間・実施回数：H28年度中・6回
- ・研修の参加人数：延べ184人（平均30.7人/日）

**【中央放射線部】**

- ・研修の主な内容 平成28年上半年期中央放射線部でのインシデントの状況および予防策について
  - ・研修の期間・実施回数 H28年7月21日 1回
  - ・研修の参加人数 25名
- ・研修の主な内容 放射線業務従事者の教育及び訓練
  - ・研修の期間・実施回数 H28年8月10日・17日・24日 3回
  - ・研修の参加人数 36名
- ・研修の主な内容 造影剤副作用 ～アナフィラキシー様反応～ 対応訓練
  - ・研修の期間・実施回数 H28年12月9日 1回
  - ・研修の参加人数 19名
- ・研修の主な内容 平成28年下半年期の中央放射線部で発生したインシデントとその対策について
  - ・研修の期間・実施回数 H29年2月14日 1回実施
  - ・研修の参加人数 41名

**【リハビリテーション部】****週間業務**

- ・リハビリテーション科朝回診 毎日 7時40分～8時20分 医師6名、療法士8名程度
- ・新患検討会 毎日 17時30分～18時30分 医師6名、療法士10名程度
- ・英文抄読会 毎週火曜日 8時30分～9時 医師6名、療法士全員（36名）
- ・画像カンファレンス 毎週火曜日 12時30分～13時 医師3名、療法士全員（36名）

- ・訓練室回診 毎週火曜日 16時15分～17時 医師5名、療法士全員（36名）
- ・リハ科入院患者検討会 毎週火曜日 13時30分～14時30分（10名）
- ・症例検討会 毎週木曜日 18時30分～19時 医師6名、療法士全員（36名）

平成28年度リハビリテーション科クルズス

- 1・研修の主な内容 「本当のリハビリテーション -和歌山proREHA宣言-」
  - ・研修の期間・実施回数 平成28年4月3日 1回
  - ・研修の参加人数 療法士（30名）
- 2・研修の主な内容 「起立の有用性と臥床の危険性 循環・体液調節の視点から」
  - ・研修の期間・実施回数 平成28年4月4日 1回
  - ・研修の参加人数 療法士（12名）
- 3・研修の主な内容 「脳血管疾患」
  - ・研修の期間・実施回数 平成28年4月5日 1回
  - ・研修の参加人数 療法士（26名）
- 4・研修の主な内容 「リハ科における業務・教育体制の確立  
-臨床に根差した教育・研究を目指して-」
  - ・研修の期間・実施回数 平成28年4月6日 1回
  - ・研修の参加人数 療法士（35名）
- 5・研修の主な内容 「診察と処方の流れ」
  - ・研修の期間・実施回数 平成28年4月5日 1回
  - ・研修の参加人数 療法士（26名）
- 6・研修の主な内容 「画像のみかた」
  - ・研修の期間・実施回数 平成28年4月10日 1回
  - ・研修の参加人数 療法士（31名）
- 7・研修の主な内容 「院内業務留意点」
  - ・研修の期間・実施回数 平成28年4月11日 1回
  - ・研修の参加人数 療法士（10名）
- 8・研修の主な内容 「装具療法」
  - ・研修の期間・実施回数 平成28年4月14日 1回
  - ・研修の参加人数 療法士（11名）
- 9・研修の主な内容 「医療安全」
  - ・研修の期間・実施回数 平成28年4月17日 1回
  - ・研修の参加人数 療法士（12名）
- 10・研修の主な内容 「感染対策」
  - ・研修の期間・実施回数 平成28年4月18日 1回
  - ・研修の参加人数 療法士（10名）
- 11・研修の主な内容 「医療機器備品について」
  - ・研修の期間・実施回数 平成28年4月24日 1回
  - ・研修の参加人数 療法士（13名）
- 12・研修の主な内容 「療法室看護業務」
  - ・研修の期間・実施回数 平成28年4月25日 1回
  - ・研修の参加人数 療法士（15名）
- 13・研修の主な内容 「作業療法業務」
  - ・研修の期間・実施回数 平成28年4月28日 1回
  - ・研修の参加人数 療法士（10名）
- 14・研修の主な内容 「心臓リハ」
  - ・研修の期間・実施回数 平成28年5月8日 1回
  - ・研修の参加人数 療法士（12名）
- 15・研修の主な内容 「消化器外科周術期リハ」
  - ・研修の期間・実施回数 平成28年5月9日 1回

- ・研修の参加人数 療法士（15名）
- 16・研修の主な内容 「言語療法業務」
  - ・研修の期間・実施回数 平成28年5月10日 1回
  - ・研修の参加人数 療法士（12名）
- 17・研修の主な内容 「血液疾患患者のデータのみかた」
  - ・研修の期間・実施回数 平成28年5月12日 1回
  - ・研修の参加人数 療法士（18名）
- 18・研修の主な内容 「ICUリハ」
  - ・研修の期間・実施回数 平成28年5月19日 1回
  - ・研修の参加人数 療法士（19名）
- 19・研修の主な内容 「運動器疾患」
  - ・研修の期間・実施回数 平成28年5月30日 1回
  - ・研修の参加人数 療法士（13名）

**【病態栄養治療部】**

- ・研修の主な内容
  - 接遇研修（病態栄養治療部 管理栄養士対象）参加者：8名
  - 感染制御部による感染予防対策研修（病態栄養治療部 管理栄養士対象）参加者9名
- ・研修の期間・実施回数 各1回

**【臨床工学センター】**

- ・研修の主な内容 臨床工学センター管理の医療機器の取扱説明
- ・研修の期間・実施回数 4月～6月 7回程度
- ・研修の参加人数 14名

**③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況**

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。



平成28年度 教育実績

対象レベル	研修名	開催日	参加人数
新人	看護記録	4月8日	99
	PNSIについて	4月13日	111
	メンタルヘルスⅠ	4月13日	99
	宿泊研修	4月15日	103
		4月16日	
	看護技術	4月21日	80
		4月25日	79
		4月30日	78
		5月12日	79
	メンタルヘルスⅡ	5月16日	80
		5月30日	48
	看護倫理	5月31日	49
		6月7日	92
	メンタルヘルスⅢ	6月20日	49
		6月27日	49
	看護記録(フォーカス)	6月24日	35
		6月28日	33
		6月30日	29
		7月25日	34
	メンバーシップⅠ	7月26日	35
7月28日		29	
9月2日		48	
フィジカルアセスメントⅠ-②	9月7日	45	
	12月5日	33	
メンバーシップⅡ	12月6日	33	
	12月7日	25	
	2月6日	33	
メンバーシップⅢ	2月8日	31	
	2月10日	26	
2年目必須	ローテーション研修	平成28年9月～平成29年2月のうち一人2週間	90
	看護を語ろう	9月14日	29
なし～Ⅰ	看護マネジメントの基本	9月16日	28
		11月21日	27
	退院支援・退院調整Ⅰ	11月21日	30
		5月24日	38
	看護マネジメントⅠ	10月5日	44
		10月末まで	32
	教育指導者入門	① 11月9日	22
		② 12月15日	20
		③ 2月28日	18
	フィジカルアセスメントⅡ-①	12月19日	36
1月6日		20	
フィジカルアセスメントⅡ-②	1月11日	16	

対象レベル	研修名	開催日	参加人数	
Ⅱ	クリティカルケア	① 6月1日	17	
		② 6月23日	16	
		③ 7月21日	16	
		④ 8月18日	16	
		⑤ 10月20日	16	
	退院支援・退院調整Ⅱ	10月27日	25	
		10月末日まで	10	
	看護研究しようⅡ	11月30日	5	
		① 9月5日	26	
	看護マネジメントⅡ	② 1月23日		
Ⅲ	看護研究しようⅢ	12月2日	7	
		10月6日	9	
	退院支援・退院調整Ⅲ	① 12月8日	9	
	看護マネジメントⅢ	① 10月24日	15	
		② 3月8日	14	
マネジメント	① 7月9日	48		
	② 10月11日	55		
役割	管理Ⅰ研修	① 7月9日	22	
		② 6月6日	33	
	管理Ⅱ研修	① 6月8日	35	
		② 6月10日	29	
	チューター研修	① 2月16日	24	
		② 2月20日	34	
		③ 10月12日	15	
		④ 11月14日	15	
		⑤ 12月26日	15	
	トピックス	① 1月31日	14	
② 2月23日		13		
③ 6月21日		22		
④ 7月13日		22		
⑤ 9月20日		22		
看護補助員	がん看護	① 9月30日	6	
		② 10月31日	29	
		③ 12月3日	29	
	私のキャリアデザインを考える	① 12月27日	29	
		② 5月23日	28	
	認知症看護	① 5月26日	28	
		② 7月4日	19	
	補助員研修	① 補助員研修①	7月6日	18
		② 補助員研修②	7月7日	18
		③ 補助員研修③	10月14日	28
④ 補助員研修④		10月17日	24	
		12月1日	18	
		12月9日	19	
		12月14日	16	



(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	病院長 山上 裕機
管理担当者氏名	事務局長 出口 博之

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	経理課 医事課 医療情報部 薬剤部	平成22年5月より、電子カルテが稼動しており、電子媒体に保存されている。診療録の持ち出しについては診療記録管理要綱で禁止されている。
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	経理課	書類形式で、ファイルに綴じて管理。
		高度の医療の提供の実績	医事課 経理課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
		高度の医療の研修の実績	経理課	
		閲覧実績	経理課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	経理課・薬剤部	
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進部	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全推進部	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全推進部	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全推進部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学センター
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学センター		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学センター サイボウズ		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全推進部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全推進部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課
		監査委員会の設置状況	経理課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全推進部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全推進部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	危機対策室
		職員研修の実施状況	医療安全推進部
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全推進部		
		書類形式で、ファイルに綴じて管理。	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。



(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状	
閲覧責任者氏名	病院長 山上 裕機		
閲覧担当者氏名	医療安全推進部長 水本 一弘 医事課長 鳴神 賢 経理課長 大平 志生		
閲覧の求めに応じる場所	医事課、経理課		
閲覧の手続の概要 閲覧の求めに応じて開示（一部はホームページなどに掲載）			

(注) 既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。



(様式第6)

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"><li>指針の主な内容： 安全で質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献するという病院の理念に基づき、病院全体で、有害事象の発生頻度の減少と、有害事象発生時には遅滞なく事実を伝え責任をもって治療、原因究明、再発防止に取り組む。第三者による客観的評価を受けながら、医療事故の温床となるような危険な医療行為や医療環境を抽出し、予防のための方策や教育・指導を継続していく。</li></ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>設置の有無（有・無）</li><li>開催状況：年12回</li><li>活動の主な内容： 平成12年12月1日から「医療安全推進の新制度」をスタートさせて以降、医療安全推進委員会を月1回開催している。<ul style="list-style-type: none"><li>ア 医療の安全管理のための基本指針の策定に関すること</li><li>イ 重大な問題等が発生した場合、原因の究明のための調査及び分析、改善の方策に関すること</li><li>ウ 予期せぬ死亡や重大事象が発生した場合の報告の実施状況の確認や病院長への報告に関すること</li><li>エ 職員総参加の医療安全推進に関すること</li><li>オ その他、医療の安全確保と医療の質の向上に関すること</li></ul></li></ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年20回
<ul style="list-style-type: none"><li>研修の主な内容： 平成28年度実施状況<ul style="list-style-type: none"><li>外部講師による講演「インフォームド・コンセント：患者さんの意思決定をするために私たちができること」（5月）、同講演のDVDによる研修（1月～3月）</li><li>外部講師による講演〈医薬品安全管理責任者共催〉「医療用麻薬の適正管理について」（7月）</li><li>〈呼吸ケアチーム共催〉「High Flow Nasal Cannulaの管理～高流量システムの理解」（5・6月）</li><li>〈子ども虐待防止検討会共催〉「医療機関における子ども虐待への対応」（9月）</li><li>外部講師による講演「医療の質安全を考える Patient Centerdness Shared dicision making」（10月）</li><li>〈褥瘡対策委員会共催〉「褥瘡の局所治療について」「身近に危険が潜んでいます!!スクエアを予防しよう」（1月）</li><li>アクシデント事例から学ぶ「モニターアラームの安全管理」（3月）</li><li>eラーニング〈医療機器安全管理者共催〉「医療機器を安全に使用するために『除細動器（同期放電）編』&amp;『人工呼吸器（死腔）編』」（10月～12月）</li><li>DVD研修「医療安全とヒューマンファクターズ～新しい医療安全教育へのアプローチ～」（10月・1月～3月）</li><li>DVD研修「生死を分けるコミュニケーション技術」（1月～3月）</li><li>DVD研修「患者さんとのトラブルを避けるためには」（1月～3月）</li><li>DVD研修「転ばぬ先の知恵～黄門さまと一緒に学ぼう、安全に病院生活を送る知恵～」（1月～3月）</li><li>DVD研修「医療安全からみた認知症」（1月～3月）</li><li>基礎研修〈医療情報部共催〉「情報セキュリティと個人情報保護」（4月）</li><li>基礎研修「バルーンカテーテルの取り扱い」（6月）</li><li>基礎研修「輸液の取り扱い」（6月）</li><li>基礎研修「心電図モニターのアラームと安全管理」（6月）</li><li>基礎研修「肺血栓塞栓症の予防」（6月）</li><li>基礎研修「呼吸ケアについて」（6月）</li></ul></li></ul>	

- ・ BLS研修「一時救命処置」(6回開催)
- その他(研修会受講回数には加算しない学習会)〈平成28年度開催実績〉
- ・ 研修医セミナー(4月~3月 17回)

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (  有 ・ 無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容:
  - 医療安全推進規程等に基づいて、院内報告制度を定め、積極的な報告の推進に努めている。レポートの迅速かつ適切な分析等に努めるとともに、医療安全推進部内で、週1回定例事例検討会を行い、医療安全推進委員会、リスクマネージャー会議を通じて、事例の共有と改善策の周知徹底を行っている。
  - 特に、アクシデント事例は、医療安全推進委員会で分析と安全管理に係る改善策等について検討協議を行うとともに、事故調査委員会での審議を必要とするものについては、随時、同委員会で審議している。
  - 患者急変時の対応としての院内緊急システムコールの報告書、全死亡事例の死亡報告書についても毎日部内で検討し、医療安全推進委員会、リスクマネージャー会議を通じて、事例の共有と必要に応じて改善策の周知徹底を行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 指針の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1 院内感染対策に関する基本的な考え方</li><li>2 院内感染対策のための組織に関する基本事項</li><li>3 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針</li><li>4 感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li><li>5 院内感染発生時の対応に関する基本方針</li><li>6 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li><li>7 その他の院内感染対策の推進のために必要な基本方針</li></ol></li></ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1 感染症の予防に関すること</li><li>2 感染症予防対策の部門間調整に関すること</li><li>3 感染症に関連する検査報告、経過、原因の追跡調査及び整理分析に関すること</li><li>4 感染症予防対策実施の教育、計画、指導及び勧告に関すること</li></ol></li></ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年6回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1 当院の抗菌薬使用状況とアンチバイオグラムについて</li><li>2 針刺しから自分と仲間を守るために</li><li>3 血液培養は2セットで！！</li><li>4 院内インフルエンザ講習会</li><li>5 HIV講習会</li><li>6 手洗い講習会（擦式消毒用アルコール製剤による手洗い、流水と石鹸による手洗い）</li></ol></li></ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)<ol style="list-style-type: none"><li>1 ICTが院内ラウンドを実施し、院内各部署の感染管理状況の把握と現場への個別指導を行い、感染対策マネジャーは、ICTと協力して部署内の感染対策に当たる。 また、細菌検査室からの細菌分離情報は、感染制御部に報告され、検討の上、感染予防対策委員会に報告するとともに病院内各部署に周知する。</li></ol></li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1 サーベイランスの実施（針刺し切創等血液曝露、耐性菌、医療器具関連感染、手術部位感染）</li><li>2 感染対策マニュアルの整備</li><li>3 院内巡回時のマニュアル遵守状況確認</li><li>4 薬剤耐性菌感染症判定と治療確認、血流感染症調査</li><li>5 ICTwebの活用</li><li>6 各部署への情報共有（各病棟の細菌検出状況レポート・無菌材料検出菌報告の配布等）</li></ol></li></ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容： ・ 医療用麻薬の適正管理について」（平成28年7月6日）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 （有・無） ・ 業務の主な内容： 業務手順チェックリストにより確認し、改善が必要と思われる業務においては、当該部署と検討し、改善している。また、手順書については、年1回改訂している。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 医薬品・医療機器等安全性情報については、製薬企業MRからの情報提供のほかPMDAナビなどインターネットを利用した情報収集を積極的に行い、入手した情報については、DIニュース等を定期的に発行し周知を図っている。 2. 定期的な情報以外に緊急を要するものについては随時情報提供を行う。 3. 情報提供は文書配布及び電子カルテシステムのポータルサイトへの掲載を行っている。 4. 緊急かつ重要な情報は院内メールを活用し、医師をはじめとする医療スタッフに周知徹底を図る。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年7回
・ 研修の主な内容： 呼吸関連「高流量システムの理解」「肺血栓塞栓症の予防」「呼吸ケアについて」 医療機器関連「モニターアラームの安全管理」「心電図モニタのアラームと安全管理」 eラーニングによる研修「除細動器（同期放電編）」「人工呼吸管理（死腔編）」	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 保守点検の主な内容： 人工呼吸器、麻酔器、除細動装置、循環補助装置、血液浄化装置、医用ポンプ、 内視鏡装置	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療機器インシデントやアクシデント等発生した際、サイボウズにて図解にて臨床工学セン ターより報告閲覧が可能。 メーカーからの報告書を医療機器管理システムに保管し、電子カルテ端末より閲覧が可能。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・ 責任者の資格 (医師・歯科医師)</p> <p>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>和歌山県立医科大学附属病院医療安全推進規程第 7 条に則り、医療安全推進委員長を担っている副病院長が医療安全管理責任者となり、統括する。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (6名) ・ 無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況	
<p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品に関する情報は、医薬品情報係担当者に整理、周知及び周知の確認を行わせている。</p> <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認等の医薬品の使用状況や使用に係る情報については、医薬品情報係担当者に電子カルテや病棟薬剤師より収集させ、必要に応じて報告させている。</p> <p>・ 担当者の指名の有無 (有)・無</p> <p>・ 担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ) (所属： ， 職種 )</p> <p>(所属： ， 職種 ) (所属： ， 職種 )</p> <p>(所属： ， 職種 ) (所属： ， 職種 )</p> <p>(所属： ， 職種 ) (所属： ， 職種 )</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有)・無 )</p> <p>・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容</p> <p>遵守状況の確認：部門リスクマネージャーによる診療録監査</p> <p>主な指導内容：規程 (インフォームド・コンセントに関するガイドライン) の周知、所定の書式の使用徹底</p>	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：他職種による診療録の質的点検を年 3 回実施。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無

・所属職員：専従（4）名、専任（1）名、兼任（3）名

うち医師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（1）名

うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（2）名

うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

※平成30年4月から医師専任2名体制とし、平成32年4月からは医師専従1名体制の予定。

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

・安全推進委員会及び調査委員会に係る事務に関すること。

・医療事故等に関する診療録及び看護記録等の記載事項の確認と指導に関すること。

・医療事故発生時の対応状況の確認と指導に関すること。

・医療安全に係る連絡調整に関すること。

・医療事故等の報告に関すること。

・医療事故等の原因究明の確認と指導に関すること。

・インシデントレポート及びアクシデントレポートの受理及び分析評価

・安全推進委員会及び調査委員会の運営に必要な事務

・医療情報部と協働し、リスクマネージャーによる診療録の監査を実施

静脈血栓塞栓症リスク評価を導入し、リスクに応じた予防策が実施されていることを調査

インフォームド・コンセントに係るテンプレートを導入し、基準を満たした適切な説明が実施されているかを調査

・アクシデント事例からの改善策について、遵守できているかを巡回でチェックする

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有 無）

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有 無）

・活動の主な内容：適否決定部門設置（平成29年4月1日）以降1件

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有 無）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有 無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有 無）

- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (  有・無 )
- ・活動の主な内容：適否決定部門設置 (平成29年4月1日) 以降2件
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  有・無 )
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (  有・無 )

⑨ 監査委員会の設置状況  有 無

- ・監査委員会の開催状況：年2回
- ・活動の主な内容：第1回医療安全監査委員会 平成29年6月1日開催  
第2回医療安全監査委員会 平成30年2月13日開催予定
- ・監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ( 有  無 )
- ・委員名簿の公表の有無 (  有・無 )
- ・委員の選定理由の公表の有無 (  有・無 )
- ・公表の方法：ホームページ

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
山口 悦子	大阪市立大学	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	有 <input checked="" type="radio"/> 無	1
中川 利彦	パークアベニュー法律事務所		法律に関する識見を有するため	有 <input checked="" type="radio"/> 無	1
石井 浩子	NPO 法人いきいき和歌山がんサポート		医療を受ける者	有 <input checked="" type="radio"/> 無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
  2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
  3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 409 件（死産：26 件）  
（平成 28 年度）
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 44 件（平成 28 年度）
- ・医療安全管理委員会の活動の主な内容
  - ・医療の安全管理のための基本方針の策定に関すること。
  - ・医療事故等の分析と安全管理に係る改善策の立案及び職員への周知に関すること。
  - ・医療安全推進のための職員研修等に関すること。
  - ・入院患者の死亡等通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったアクシデント事象が発生した場合の報告に関すること。
  - ・職員総参加の医療安全推進に関すること
  - ・その他、医療の安全確保と医療の質の向上に関すること。

⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：奈良県立医科大学附属病院（12月4日予定））・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：京都府立医科大学附属病院 10月3日予定）・無）
- ・技術的助言の実施状況  
近畿管内特定機能病院グループ別連絡会議（公立大学・国立循環器病研究センター・大阪国際がんセンターグループ）で統一のピアレビュー調査票を作成し、今年度から開始する。  
あらかじめ決められた順番の当番病院が事務局を担当し、今年度は当院が事務局となっている。

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況  
患者相談窓口で受け付け、医事課及び関係部署と連携して対応する体制となっている。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有・無）

- ・窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（有・無）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有・無）

⑭ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

平成 28 年度実施状況

- ・外部講師による講演「インフォームド・コンセント：患者さんの意思決定をするために私たちができること」（5月）、同講演のDVDによる研修（1月～3月）
- ・外部講師による講演（医薬品安全管理責任者共催）「医療用麻薬の適正管理について」（7月）
- ・〈呼吸ケアチーム共催〉「High Flow Nasal Cannula の管理～高流量システムの理解」（5・6月）
- ・〈子ども虐待防止検討会共催〉「医療機関における子ども虐待への対応」（9月）
- ・外部講師による講演「医療の質安全を考える Patient Centerdness Shared dicision making」（10月）
- ・〈褥瘡対策委員会共催〉「褥瘡の局所治療について」「身近に危険が潜んでいます!!スクエアを予防しよう」（1月）
- ・アクシデント事例から学ぶ「モニターアラームの安全管理」（3月）
- ・eラーニング〈医療機器安全管理者共催〉「医療機器を安全に使用するために『除細動器（同期放電）編』&『人工呼吸器（死腔）編』」（10月～12月）
- ・DVD研修「医療安全とヒューマンファクターズ～新しい医療安全教育へのアプローチ～」（10月・1月～3月）
- ・DVD研修「生死を分けるコミュニケーション技術」（1月～3月）
- ・DVD研修「患者さんとのトラブルを避けるためには」（1月～3月）
- ・DVD研修「転ばぬ先の知恵～黄門さまと一緒に学ぼう、安全に病院生活を送る知恵～」（1月～3月）
- ・DVD研修「医療安全からみた認知症」（1月～3月）
- ・基礎研修〈医療情報部共催〉「情報セキュリティと個人情報保護」（4月）
- ・基礎研修「バルーンカテーテルの取り扱い」（6月）
- ・基礎研修「輸液の取り扱い」（6月）
- ・基礎研修「心電図モニターのアラームと安全管理」（6月）
- ・基礎研修「肺血栓塞栓症の予防」（6月）

- ・基礎研修「呼吸ケアについて」(6月)
- ・BLS研修「一時救命処置」(6回開催)

その他(研修会受講回数には加算しない学習会)〈平成28年度開催実績〉

- ・研修医セミナー(4月~3月 17回)

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

当院では、年2回開催しているリスクマネージャー全体会議において、マネジメント層(部門リスクマネージャー以上の病院幹部・診療科長・中央部門長等)に向けた研修(外来講師、1講師60分以上の研修)を開催し、出席を促している。

平成28年度 5月17日開催

「インフォームド・コンセント:患者さんの意思決定を支援するために私たちができること」

講師:京都大学医学部附属病院 医療安全管理室 室長 松村由美

10月26日開催

「医療の質安全を考える Patient Centerdness Shared dicision making」

講師:聖路加国際病院 副院長(腎臓内科部長)小松康宏

平成29年度 5月17日開催

「患者と医療者が協働する医療を目指して」

講師:認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長 山口育子

10月30日開催予定

「蘇生不要指示(DNAR)に正しい知識と適切な運用について」

講師:呉共済病院 麻酔・救急集中治療部 部長 石川雅巳

(注)前年度の実績を記載すること(⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)



(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構 2013年1月	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 ホームページ 病院広報誌「まんだらげ」	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 がんセンターボード (肝がん、甲状腺がん、肺がん、消化器がん、骨腫瘍、乳がん、 頭頸部がん) など	

